

31 2 3 4 5 6 7 8 9 1

方言録音資料シリーズ-4

岐阜県不破郡垂井町岩手方言

奥村三雄編

1968

も く じ

収集地点とその方言について.....	2
表記について.....	3
本 文	
(1) 世 間 話	4
㊦ 補聴器のこと	4
㊧ ものもらいのこと.....	8
(2) 忙しい農村女性の一年	11
㊦ 一年の行幸	12
㊧ 経済的な面その他	43
(3) 戦争中の思い出	52
㊦ 空襲のこと	52
㊧ 食糧事情のこと.....	59
(4) 天災の思い出	66
㊦ 地震のこと	68
㊧ 雷・火事のこと.....	71
㊦ 日照りのこと	75
㊧ 台風のこと	85
(附) 米俵査のこと	86

このテキストは、総合研究「地方における話しことば教育法改善のための基礎的研究」(代表者大石初太郎)の一部として、研究用の資料として作られたものである。

方言の録音方法、方言の表記の方法などのあらましについては、別に作った「方言の録音とテキストの作成について」(国立国語研究所 話しことば研究室編)を参照されたい。

ここに収めた方言の録音とテキストの作成とは、岐阜大学助教授 奥村三雄 が担当した。

収録地点とその方言について

1. 収録地点名：岐阜県不破郡垂井町岩手漆原（旧岩手村漆原）

2. 収録地点の概観

純粋の農村。垂井町全体の性格は別として、旧岩手村内は、殆んど農業といえる。旧岩手村の中に、竹中半兵衛関係の旧跡があり、関ヶ原関係の史蹟あり。東海道線垂井駅からバス10分弱、東海道線新垂井駅から徒歩で10分余り。

3. 収録した方言の特色

- もともと、美濃方言は、東日本方言と西日本方言の緩衝地帯とみなされるが、その中でも、西美濃垂井町・関ヶ原町（不破郡西部）地方は、その性格が最も濃厚である。
- アクセント（特に一・二拍名詞）の面におけるその性格は、早くから注目されていて、垂井式アクセントの名義さへ通用している状態であるが、その他の面でも、やはり、緩衝地帯的性格が顕著である。
この文字化資料中でも、 \cdot ハ行五段動詞連用形におけるウ音便（銀オク）と促音便（銀クク）の混用、 \cdot 一拍名詞長音化傾向等、いろいろな現象が認められる。
- 従来イ ai 連母音の変化しないという事が、この地方の特色（東美濃・中美濃に対し）とされていたが、実際にはこの資料中かなり頻繁に変化形が認められ、将来の研究テーマとなりそうである。

4. 地点選定の理由

担当範囲は東海地方及び近畿地方と考えられるが、さし当ってその両勢力の接触地帯が目まされる。その接触地帯としては、美濃西部と、近江東部の両者が挙げられる。その中、アクセント等の性格からかんがみて垂井町方言が最も興味深い様である。

表記について

〔指定の字母以外に使用した字母、および使用した補助記号〕

字母・補助記号の種類	語例と意味	（標準語訳）
æ	dæ: t e (p,6)	〔出して〕
	mæ: r u (p,7)	〔参る〕

- (1) 表記は大体、「方言の表記について」（国研1966-10-20）に従った。
 (2) 分も書きは、大体、文節（ σ それに準ずるもの）単位とした。
 但し音声変化や意味の慣用性その他の関係で、所謂文節論的に二単位のものゝ一単位としてとり扱った場合がある。例えば
- 例えば、 $\left\{ \begin{array}{l} @ \cdots t o j u : (\text{と言う}) \text{が} \cdots c j u : \text{の如く融合した様な場合} \\ @ \cdots k a s i r a (\text{…が知らん}) \text{が} \cdots \text{一語の終助詞の如くになっている様} \end{array} \right\}$ 等
 な場合

(1) 世間話

録音日時 1967年3月3日

録音場所 垂井町岩手線原
浅野ふみえ氏宅

話し手

(略号) (氏名) (性別) (生年) (職業) (居住歴)

K 見玉きぬえ 女 明治32年生 農産 大垣市竹(0-18), 垂井町岩手線原(18~)

A 浅野ふじえ 〃 26年生 〃 垂井町府中市尾(0-18), 垂井町岩手線原(18~)

解説: この録音に当り、主に質問してもらった人(浅野ふみえ氏=土地の人)が別當しない語・自由に話してもらったもの。

①補脚語も、浅野氏が使用しているので、それについて(p5~p8)

②見玉氏の家族の人の目途(ものもらい)の事 (p8~p.11)

④ 補脚語のこと

K wa'tasira ano terebide jaqtemo terebi komako:
私等は あの テレビで やっても、 テレビが 細かく

ucuqto baqaja hame:temi:ja hamete mi:ja
映ると 「はあさん、 はめてみなさい、 はめて みなさい」

cude hamete mitemo wa: cjoqto kikoehenwa
といふから はめて みても ワー、 少しも 聞えないよ

<A omahanta ko:ianka> kawahenkedona terebi-
あなた達 買ったのか? kawahenkedona terebi-
聞かないけれどね。 テレビ

dena'ci:ai koede suqto kikoehenjaro' unde
でね、 小さい 声で 薬には 聞えないでしょう。 それで、

soi'cuona: hamete mi:ja cude [笑] cjoqto mo
そいつをねー 「はめて みなさい」と言うから、 少しも

kikoehen
聞えない。

A jaqpa korena: ma: se: dæ:te hamecukena
やはり これねー まあ、稽を出して はめつなければ

akanbenawa <K so:jarona> tameadejo:dena:
だめだそうだよ。 そうでしょうね > 玉の上げようだねー

wa:nto:ju:dena
ワーンと いうだね。

K hun jaqpa watasirademo ano terebino jacu
フン、やはり、気象でも あの、テレビの イヤホーンを

hamete mifemo wa:qte cjoqtomo kikoe:henana
はめても、みてても、ワーンといて 少しも 聞えないがね。

A koqciwa kanacunbozjaro <K un> honno ju:to
こちらは まるでつんぼでしょう。 <クン> 本当を 言うよ

cunbono ho:e kakena akanwana: <K honna>
つんぼの 方の耳へ かけなければ だめだよねー。 <クホンナ>

kikoeru ho:e kakena: cunbono ho:e kakeruto
聞える 方の耳へ かけなければ、 つんぼの 方の耳へ かけると

nannimo
何も。

K nannimo kikoe:henjarona atasimo koqciða
何も 聞えないでしょうね。 私も こちらが

kikoe:hen
聞えない。

A nannimo kikoe:hen cūtaesannojo:ni icumo
何も 聞えない。 つたえさんの様に いつも

kamo kākicuketōrutona <K un> zjūða wakarū
かも かけつけているとね。 <クン> 調節方法が わかる。

<K wakarude> tamani po:nto kakerunna'ra
わかるから たまに ポーと かけると

wakarahen <K wakarāhen> icumo kamo hikidasini
わからない。 わからない、 いつも かも 引き出しに

hoke:teara [笑]
放ってある。

K icumo kamo hora kaketorana akanjaro <A ka-
いつも かも、それは、 かけていなければ、 だめでしょう <アカ-

ketorutona: > kawarano joqsan anō tera:ome:-
かけているとねー > 川原の よしさんは、 あの、寺へ、お参

ri'sjtaraha: tanni hoqtara soicu icumo kamo
りしたねー、 それを、 谷へ、 したら、 いつも、 かも

hokode oite kokode cjo:secusitarunjade
そこに 置いて、「ここで 調節してあるんだが

kaketoruto e:kedō kaketoranto akan ciqte
かけていると よいけれど、 かけていないと だめだ」と言っ

A ho:zja ho:zja kakecukennaran okju:san kona:-
そうだ、 そうだ、 かけつけなければいけない。 おきょうさんは、 この

ni icumo kamo oterasane mō:rito kakete go-
頃、 いつも かも お寺さんへ 参ると、 かけて、 い

zaru <K hu:n> so:ja kakecukena akanni
られる。 <フン> そうだ、 かけつけなければ、 いけない。

K kakecukena akan icumo kamo jaqpa kakecukeru-
かけつけなければ、 だめだ、 いつも かも。 「やはり、 かけつける

to ano: terebino jacudemo ho:jamo cjoqtomo
と、 あのー、 テレビの イヤホーンでも 同じだもの。 少しも、

honnamon kaketaqte tamani kaketaqte kikoe-
そんなもの、 かけてみても…… たまに かけても 聞え

henmo
ないもの。

A so:zjaro hun kakecukena akanwa soreni: jaq-
そうでしょう、 フン、 かけつけなければ、 だめだよ。 それに、 やはり

pa zjamazjasina mimi omoiwa <K omōjaro>
り、 邪魔だしな、 耳が、 重いよ。 <クオモイ> 重いでしょう

sōndakeno kotōdana
それだけの 事がね。

K mepanedemo kakecuketoruto ci'pūw [戸の音]
隠れても かけつけていると 違う

〈K cibau〉 meʒanedemo icumo kamo kaketoruto
逢う 眼障でも いつも かも かけていると

meɓa ra:kunajo:na kin surukedona: meɓane
目が 様々な 気が するけれどねー、 眼障を

kakento siboto ano: nanzo cjoboqto sjo:to
かけないと、 仕事、 あのー、 何か 少し しようと

omouto ciqtomo mie:heɳni [笑]
思うと 少しも 見えない。

A hoqtana: nanzja sjan ko:ju: huci daruiwa
そしてねー、 何か しら、 こういふ様に 目の障が だるいよ。

〈K hoja daruiwa〉 hondemo kakena mici aruke-
そうだ だるいよ それでも かけないと 道を 歩け

nsina 〈K jaqpa kakecuketorutona〉 un kake
ないしね、 〈やはり、 かけてつけているとね ウン、 かけ……

cukaerujo:na monde zido:sja menomae kurujo:-
つかえる様な もので、 自動車は 目の前へ 来る様

na 〈K un〉 nandemo kuseno monjawana
な… ウン、 何でも くせの ものだよな。

X kuseno monjawana:
くせの ものだよな。

何 ものもらいのこと

A akiesan ciqto me joi: naqtakm:na
あきえさん 少しは 目が よく なったかね？

X un dæ:bu hare hitani
ウン、 大分 はれが ひいたよ。

A hunnara icincino koqte kinno icincijaro
それなら 一日の 事、 昨日、 一日でしょう？

otocui iqtade
一昨日 行ったんだから。

X un dæ:bu hare hitena: kjo:mo mo: kakento
ウン、 大分 はれが ひいてねー、 今日も 「もう 眼障をかけないで

okoka sjan iqte gozaqtanjate hondemo mata
おこうか しらん」と言っ たられたんだよ。 それでも 又

kaze huitari bæ:kin hæ:ruto akandeqte mata
「風が 吹いたりして ばいさんが 入ると いけないから」と言っ たら 又

ima kakecuketena: gaqko:de konna mon kaketo-
今 かけてつけていてねー。 「学校で こんな ものを かけて

qto gaqko:de daren detorujara ciqtomo mie-
いると、 学校で 誰が 出ているのやら 少しも 見え

hen [笑] majumi detoqtakaqte ciqtomo miehen
ない」… 「ママミが 出ているのやら 少しも 見えない」。

teqte gozaqta nara gaqko:de hazuitorja:
と言っ たら、 いられた。 「それなら 学校で 外していれ

e:ɓanaq tete
いいがね」と言っ たら、

A hun ho:zja
ウン、 そうだね。

X mici arukuno jaqpa kaze ataqtarinanka suru-
道を 歩くのは、 やはり 風が あたったりなんか する

tona:
とねー。

A akan akan akante icidona hokori hæ:qtana:
だめ だめ、 だめだつて。 一度ね、 ほこりが 入っ たらねー、

bæ:kin hæ:qte 〈K bæ:kin hæ:qte〉 o:so:do:zja
ばいさんが 入っ たら、 〈ばいさんが 入っ たら〉 大きわびだよ。

X konoɓoroa hokoriqpoïdena: hundɛ wataɓi so:-
この頃は ほこりっぽいからねー、 それで 私は そう

iqte muko:de hazuitorja e:ɓana: cju:torunzja
言っ たら 「むこうで はずしとれば いいがね」と言っ ているんだよ。

A un hundɛ minbo undanka
ウン、 それで めいぼは うんだの？

K ho:ja menbo undajana: unde undanomo undaja-
そうだ めいぼが うんだんだよねー うんで、 うんだのも うんだら

rokedo monosuro: iqko naqtoqtajana: iqko
しいけれど ものすごく 大きく なっていたんだよねー 大きく

naqtemo neqkara undorahenanda de:te umiga
なっても それほどは うんでいなかった。 大体 うろが

de:henanda mo: sonna oqki: mon naqtara
出なかった。 「もう そんなに 大きき ものに なったら

dennarannonina: iqte umiga denandajaro
出なければならぬのにおー」 と言っ... うろが 出なかったでしょ、

hunde oisja
それで お医者へ。

A de sonnade konna toko cukasitanka
で、 それで この 辺を 突きなされたの？

K so:rasi:wana cju:sjabarimite:na monjana
そうらしいが、 注射針の様な ものだね。

A mo ne:nukisa: seja e:wa
もう 根ぬきさえ すれば いいよ。

K ho:ja nenukisa: seja e:wa dokora kubino
そうだ、 根ぬきさえ すれば いいよ。 どの辺かと言うと 「首の

kokono jacuga itae:toka nantoka
ここの やつが いたい」とか 何とか。

A mata soko soko
又 そこ そこ？

K un [笑] aqja: kuquri kocja: kuquri sita
ウン、 あちらが 悪くなり こちらが 悪くなり した。

A ne: nuketorande
根が ぬけていないから。

K ne: nuketorande iqkura ge:sjusan cju:sja
根が ぬけていないから、 いくら クレックさん(医者の名)に 注射を

uqte maqtakate cjoqtomo akahen
うって もらっても、 少しも 治らない。

A ozjo:zu jo: iwande <K ho:ja> ho:ja ate:N-
お上手は うまく 言えなから <そうだ> そうだ、 私達

taqteqte sjaberu <K hontoja> [笑] tamani
でも しへべる... 本曲だ たまに

josono ume: koto ju: sitono mane sitakate
よその 上手に 話す 人の まねを してって

cu:roku site ikahende <K cu:roku site ika-
つりあって つりあって いぬいから... つりあって... いか

hen > akahenwana: mukasikara nareta monna:
ない > だめだよな、 昔から 慣れた... ものねー、

kotobano ho:wa e:wana:
言葉の 方が いいよねー。

K moqte kite hecuketajo:na monde <A akahen>
持って きて くっけた様な もので、 <いけない>

[笑]

A nakanaka keqte konba mieruzjarokana <K un>
なかなか 帰って こないが (お客さんは)来られるだろうかね。 <ウン>

zite:nsjanara mo: keqte konnanna:
自転車なら もう 帰って こなければならぬよねー。

(2) 忙しい農村女性の一年

録音日時 1967年3月3日

録音場所 垂井町若手跡原
浅野ふみ江氏宅

話し手

(略号) (氏名) (性別) (生 年) (職業) (居 住 歴)

K 児玉きぬえ 女 明治32年生 農業 大垣市字舟(0-18) 垂井町若手跡原(18-)

A 浅野ふじえ 女 26年生 垂井町府中村市尾(0-18) 垂井町若手跡原(18-)

解説: 昔はつらい仕事が多かった。

特に豪華の仕事をはじめとして、一年中、次々と仕事が進んでくる。経済的な面から考えても、よくあれでやってこられたと思う。

例 一年の行事

A icisekukarano kotoo zu:to omahan okø:ko
一月からの 事を ずうっと、 あなた、 お茶が

agarumadeno koto ija: e:wana: <M hu:N i:jo
あがるまでの 事を 言えば いいよねー。 <M フーン、 いいよ、

sorede > sonde simø:zjana
それで、 > それで 終りですね。

M sore honnara hanasiteto
それを、 それでは 話して下さい。

A honara iciecuwa ma: nanzjana boqkocudina
それでは、 一月は まあ 何だね、 ボロつきね。

sabuidena <M hun hun > boqkocubi sitanaqte
楽いからね、 <M フン フン > ボロつきを したわって。

nigacuna hazimeka nakaporomade grø: suruwa-
二月はね、 始めから 半ば頃まで 位 するよ

na <K hojana > sorekara ta:raβosirae: surun-
ね、 <K そうだよね > それから 俄ごしらえを するん

zjana
だよね。

K ma: nanzjawana: watasira ano hataori
まあ 何だよねー、 私は あの 機織り。

A kono sitontawa nanzja tawaraposirae waqcin-
この 人達は 何だよ、 俄ごしらえ、 私達

ta: joqsaridemona: nawa nanzjana hosonawa
は 夜でもねー、 獲。 何だね、 稲穂

niwacucu nawa sitemawan kotonniwa <K nerare-
二把ずつ 糸を 作ってしまわない 事には <K ねられ

henandade > nerarejahananda niwacucu no:to
なかつたよ > ねられなかった。 二把ずつ なんと。

hotena: mata tawara anda <K ho:zja > hote
そしてねー、 又 僕を 編んだ、 そうだ、 そして、

sono ø:daniwa otenki i:to hataorizjananja
その 間には お元気が いいと 機織りや何かを

K hataorimo sinnansina: hatakeemo ikannansi
機織りも せねばならないしねー、 畑へも 行かぬけねばならない。

A hotekara sono ø:dani mata janme: kinoha
それから、 その 間に 又 山へ 木の葉を

kakini ikannansina:
かきに 行かぬけねばならないしねー。

K jame: kinoha kakini hasirannaran
山へ 木の葉を かきに 走って行かぬけねばならない。

A hotekara manda nanzjana kondo omahan jaqte-
それから、 まだ 何だね、 今度 は あなたが 言ってるよ。

na: ma: komecukimo sinnaran
いよねー。 まあ、 米つきも しなければならぬ。

K komecuki [笑]
米つき。

M ho: komecuki
ホー、 米つき？

K mukasiwana: aside hundandeqsjaro konna grø:-
昔はねー、 足で 踏んだんでしょ。 こんな 位

no isiusunina ano nokibani aqtena sosite
の 石臼にね、 あの 軋機に あってね、 そして、

aside tonko tonkoto hundandesuwa nito:baka-
足で トンコ トンコと 踏んだんですよ。 二半ばか

cucuna <M hu:N > hun so: jaqte okome cuitan-
りすつね。 <M フーン > フーン、 そう、 して、 お米を ついたん

desun
ですよ。

A hoqte kanzukicju:tena:
そして、樂づきと書いてね。

K ho:zja: kanno ucina cjoboqtozucu cuite
そうだ、楽のうちにね、少しずつ ついて、

nacuuci taberunonine <M hu:N> so: jaqte
夏の間に 食べるのにおね。 フーン そう やって

cuitan nde mo: watasira kodomo o:kaqtade
ついたの。 それで、もう、私等は 子供が 多かったの、

kono sitonta:wa kodomo sukenakaqtade joro-
この 人達は 子供が 少なかったの、 よろ

sikaqtakedona: harisiotomo sennarandadesu-
しかなかったのね。 針仕事も、 しなければなりません

si
し。

A imano jo:ni cjoqtomona: nuikajasu cju: koto
今の 様に、 少しもねー、 續かえす、 という 事は

arahnanda
なかった。

K imawa hima æ:te jorosi:kedona hukubaqkadesu-
今は 暇が あいて よろしいけれどね、 暇ばかりですか

de
ら。

A nna kodomo gaqko kucu hm:te jukujona mono
そんな、子供が、学校へ 靴を はいて 行く様な ものは

mita koto arahn
見た 事が、ない。

K mita koto arahn
見た 事が、ない。

M nani haiteqtano
何を はいて行ったの？

K zo:rija
草履ですよ。

K ensokumaejatose:dana ma:ban zo:ricukuri
遠足前だとね、 毎晩 草履作りを

sita asitawa ensokuja teqte
した。 明日は 遠足だと 書いて。

A a:n kamicukezo:riona
ア、 紙まき草履をね。

K kamicukezo:ridena zo:ri cukuqtandesu hoqte
紙まき草履でね、 草履を 作ったんです。 そして、

A hote obento:wa hurusikide
そして、 おべんとうは ふろしきで。

K huqhu hurusiki ko: ju:ni jokoni oinete
フッフ、 ふろしきで この 様に 横に 背負って。

A zaqto oinen hosite minna aruitena: zo:ri
ざっと 背負い、 そして、 皆 歩いてねー、 草履の

cumakananni atobake site hote iqta gaqko:e
後にひもを つけて、 そして 行った、 学校へ

iqtanjjawana
行ったんだよね。

K mukasiwana: hontoni ima ju:tosæ:ða mina
昔はね、 本番に、 今 言うと 昔

waraja:su kure:ja (笑)
笑いなる 位でしょう。

A mo: siðacu iqpe:ni hata oruwana
もう 四月 一ぱいは 概を 磨るよね。

K n saizja mo: sigacuniwa <A simo:te mau>
ン、 そうだ、 もう 四月には、 終って、 しまう

simaqte mau
終って しまう。

A un simote mau horekara omacuri kuruzjaro
ウン、 終って しまう。それから お祭が くるでしょう。

〈M huN〉 omacuri kuqto mata sorekara oke:ko-
お祭が くと、 又 それから お蚤

sanno jo:wai suru oke:kosanno ami andarina:
さんの 用意を する。 お蚤さんの 網を 編んだりねー。

naninkaja surunzjawana zuqto i:no ami ciqto
何やかや するんだよね。 ずっと。 イイの 網。 ちよっと

icinomiiae iqte ko:te kuru
一番市へ 行って 買って くる。

K u:N i:wa kaqte kitewana: ucide andajana:
ウン、 イイは 買って きてはねー、 家で あんだよねー。

i:no amino-
イイの 網の……

M i:i:qte nani i: hu:N
イイ、 イイって 何? イイ、 フーン。

K i:to ju:tena ko:ju: tatamino omoteni suru
イイと 言っただ、 こういう 畳の 表に する

jo:na monjawana
様な ものだよ。

M i: hu:N soremo andan
イイ、 フーン、 それも 編んだの?

K un ami andano sorena oke:kosanni kakeru
ウン、 網を あんだの。 それね。 お蚤さんに かける

amina
網ね。

A jonabeni sanme:cucu andajana
夜なべに 三枚ずつ あんだんだよね。

M de icu deruno kaiko
それで、 何時 出るの? 蚤

K ke:kowa gobacu
蚤は 五月。

M gobacu
五月?

A gobacu joqkato icuka 〈K joqkaka icuka〉
五月の 四日と 五日。 〈 四日か 五日 〉

K tō:pe: mijasiromacurijaqtawana un
大たい 宮代祭の場だったよね。 ウン。

M gobacu icukaqorojang
五月の 五日頃ですな?

A horekara cisaandena mina iqsjoni 〈K iqsjoni
それから 昔 一しよに、 一しよに

minnana〉 sitotokode ko:te hotekara gobacu
昔ね 一所で 倒って それから 五月

zju:gonicini wakerunzjana
十五日に 分けるんだよね。

K tō:pe: sonna jo:na monjawana zju:gonci
大体 そんな 様な ものだよ。 十五日。

o:bakimacuri zibunni icudemo wakeru 〈M wa-
大畑祭の 場、 いつでも 分ける。 〆、 わ

keru〉 minnana kaqtadake nanguramu teqte
ける? 昔ね、 倒っただけでも、 何グラム といっ。

mukasiwa guramuja nakaqtakedona:
昔は グラムでは なかったけれどね。

M de wakete moqte kaqte iede kondo jaruno
それで分けて 持って 帰って、 家で 今度、 餌をやるの?

K un hote ucide kauno
ウン、 そして、 家で 倒りの。

A horekara kjo:so:tekizjapana me:ke: me:me:
それから 競争的だね。 毎回 めいめい

nanguramude kjo:so:tekide: hote tokuho:zi
何グラムで、 競争的にして、 そして、 トクホー寺……

M nani kjo:so:teki
何、 競争的?

K minna jaqpa ano otage:nina: cjoboqtodemo
昔、 やはり あの、 お互いにねー、 少しでも

josotowa joke: toro:to omoqte (笑)
よそよりは 多く とらうと 思っ。

A kibaqte jarunzjawa sono me:ba tokuho:zimade
きばって やるんだよ。 その まゆが トクホー寺まで

moqte kannarandena <K e: ho:zja> unde roku-
持つて 行かねばならないのね。 <エー、 そうだよ> それで、 六

pacuno go:acuni dete rokugacuno cuki hazima-
月の、 五月に 出で 六月の 月始ま

rini zjo:riku surunzjawana agarude sono
りに 蛋があがるんだよね。 あがるので、 その

o:damo jore:niwa oki sitena: nanzjana: miq-
間も 四つ寝して 起きてねー、 何だねー、 三

ka miban otokoni cjoqtomo sawaqte ma:henke-
日 三晩 男には 少しも さわって もらわかいけ

dona joqkame:kara otokoni ciqtobakacucu
れだね、 四日めから 男の人に 少し位ずつ

sawaqte morote kuwademotoqte maunja sore-
さわって もらって、 傘でも とって もらうんだよ。 それ

madewa onago sitoride jarikuru:Njawana:
までは 女 だけで やりくりするんだよねー。

jonabenja: honamono kuwatoribaqka
夜なべには、 そんなもの、 衆とりばかり。

X mukasiwa josari kuwasetanjadena: watasira
昔は 夜に 食わせたんだからねー、 私等は

zju:nizijori hajo: neta koto arahen
十二時より 早く 事が ない。

A neta koto arahen
寝た 事が ない。

M nande onnabaqka jaruno otoko kawaqte morau
どうして 女ばかりで やるの? 男に 代わって もらう?

A otokowa tanbo sennaran <K tanbo sennaran>
男は 田の仕事を せねばならない。 <田んぼの仕事をしなげばならない>

M a: tanbo sennarande
アー、 田んぼ仕事を しなければならぬから?

X jame:mo ikanaransina <M isopasi> hunde
山へも 行かなければならぬしね。 <忙しい?> hunde
それで

onnabaqkasi nanbi sitanja (笑) <M hanbi si-
女ばかりが 借債を したんだよ。 <借債を し

tano hu:N>
たの? フーン>

A imawa terebi mitoqte zju:nizimade
今は テレビを 見ている 十二時まで。

M hode kaikono kurusi: sibotoqtenowane: donna
それで、 蛋の 苦しい 仕事というのはねー、 どんな

koto
事?

K kaiko kaqtoqte <M erai sibotoqte> ere:cjuno-
蛋を 割っていて <つらい 仕事というのは?> ere:cjuno-
つらいというの

wa ma: ano joqcuera:kara okitekarakawana
は マー、 あの 四つ寝から 起きて以後だよ。

okitekara miqkabaka taqtekaraba kuizakarini
起きてから 三日ばかり たってから後が 食いざかりに

naqte kurudena <M hun> hunto sorekaraba
なって くるからね。 フン> すると、 それからが

ere:wana cjoqto omo: naru:si <M kaikoba nani>
つらいよね。 少し 重く なるし <蛋が? 何?>

o:ki narudena
大きく なるからね。

M o:ki naruno <K omoe: no>
大きく なるの? <重いのだよ>

A icire: nire: sanre: jore:tona sihen nete
一れい 二れい 三れい 四れいとね、 四回 寝て

okisaqseruzjaro sorekara miqkamemade gre:wa
蛋が起き(おれ)るでしょう。 それから 三日めまで 位は

ona^oode jareruzjaro kuwademo toreru mo:
女で やれるでしょう。 桑でも とれる。 もう

joqkamekarawana: honna on^oo sitoridewa
四日めからわねー、 そんな 女 だけでは

mawarehenwa kuwao curikomannarandena: gjo:-
手がまわらないよ。 桑を つりこまねばならないからねー、 たく

santo
さんに。

M omotaide <A un> eraideka
重いから? <フン> 壊れるからか?

K omote: no
重い。

M omotaino kuwaga
重い? 桑が。

K kuwawa e: kedona <A gjo: sanjade> ke: koda
桑は よいけれどね。 <たくさんだから> 蓋が

omotai
重い。

M: huN huN kaikoda omotaino
フン フン 蓋が 重い?

K ijko narudena sokoe kuwao kuwaserudeqsjaro
大きく なるからね。 そこへ 桑を 食わせるでしょう。

donto gjo: sanna
うんと たくさん。

M a: so: suruto omotaide aherarehenno
アー、 そうすると、 重いから 上げられないの?

K so: so: hunde jaqpa otokono sitoni ciqtocucu
そうそう、 それで やはり 男の 人に 少しずつ

teqtaqte moraqtena
手伝ってね。 もらってね。

M kuwane ano: edanari moqte kuruno haqpadake
桑はね、 アノー、 枝なりで もって くるの? 葉っぱだけ

toqte kuruno
とって くるの?

K un edanari moqte haruwana edanari kirikon-
ウン、 枝なりで 持ってくる。 葉はね、 枝なり 切りこん

dejana
でだね。

M haruwa edanari
春は 枝なり?

K hu: N ucide <M iede toruno>
フーン、 家で…… <家で とるの?>

A janabeni torunde akuruhi icinci kuwaserudake
彦なべに 取るんだから、 あくる日 一日中 食わせるだけ

zenbu toru
全部 取る。

M akuruhino bunmo hu: N
あくる日の 分も、 フーン。

A otenkidemo waruitona: nan: hoqte tæ: te:
お天気でも 悪いとわー、 なに、 そして、 大い

rokuacu miqka boroni aqaruna: nanuka taqto
六月 三日頃に あがるねー、 七日 たつと

aqaruna: sono mæ: o omæ: san nanzjana kjo: do:-
あがるねー、 その まゆを、 あなた、 何だね、 協同

zjade iwademura zenbu kjo: do: zjadena hunde
だから、 碧手村 全部 協同だから、 それで、

oma: tokuho: zi moqte jorunzja hoto iqto:
あなた、 トクホー寺へ 持って やるんです。 そうすると、 一等

nito: sando: to mæ: ni: cukunzjava hosuto
二等 三等と、 まゆに つくんだよ。 そうすると、

honde minna iqsjo: kenme: de mo:
それで 皆 一所懸命で、 もう。

M a: to: ga cukuno maju majuno zjo: to: kara
アー、 等級が つくの? まゆ、 まゆの 上等から、

A anmari warui jaqcjato koqcino ho: no i: 余り 悪い ものだと、 こちらの 方の…… よい
 mæ: zjato korewana i: toko iqcjuqte hoqte までだと 之はね、 よい所へと いて、 そして
 o: ze: joqtana hoqte jakuniisan o: ze: goza- 多勢 集まっでね、 そして 役人さんが 多勢 居られ
 rude sokoe moqteqte hoite るから、 そこへ 持って行って、 そして、
 K hoite minna joraqsuqdeqsjaro dæ: no ue dæ: to として、 皆 より分けられるでしょう。 台の 上に ダーッと
 aketene: joraqsurude honde sonna joqte mau- あけてね、 より分けられるから、 それで、 その様に より分けて もら
 tose: ga minna muko: no mon naqte maundesuwa うと、 皆 向こうの ものに なって しまうんですよ。
 hunde jaqpa ucide omoikiri senbecu site それで、 やはり 家で 充分 選別 して
 kundesuwana < A so: jaqte kæ: kokæ: sitena > 行くんですよ。 < そう やって 審判いを してね、 >
 M hunde waruinowa zibundoko oitokono それで、 悪いのは 自分の所へ おいておくの？
 K he: so: so: zibundokoe muko: e moqte kute: はい、 そうそう、 自分の所へ 向こうへ 持って 行くと
 jorarerutose: ga minna muko: no mon naqte より分けられると、 皆 むこうの ものに なって
 mau しまうの。
 M honara sono warui jacuwa do: suruno muko: e それでは、 その 悪い ものは どう するの？ むこうへ
 torarerudesjo: warui jacuwa honde sorewa とられるでしょう、 悪い ものは、 それで それは
 do: saqsuruno muko: no sitowa どう されるの？ むこうの 人は、

K hora muko: no sito jaqpa uraqsurundeqsjarome: それは、 むこうの 人が やはり 売られるんですよ
 ka か
 A i qpe: nomu jacuni (笑) aka sorewa akazjade 一ぱい お酒をのむのに、 もうけ、 それが もうけだから。
 < M hu: N >
 フーン
 A hoqte ucide kuzumæ: wa minna ito toqte maq- それで、 家で 屏まゆは 皆 糸を とって しまっ
 tena: honde ucide dondon dondon kinubata てね、 それで、 家で どんどん どんどん 濯機を
 kosæ: ru 作る。
 M so: ju: monode hata oruno so: ju: waruj そう いう もので 機を おるの？ そういう 悪い
 jacude もので、
 A ito toqte nde mukasino sitowa mina kinubatao 糸を とって、 それで 昔の 人は 皆 濯機を
 jo: ke moqtorujaro imano sitowa mina ke: mon- たくさん 持っているでしょう。 今の 人は 皆 買ひ物
 baqkazja ke: ko kaqte hunde mina mo: oke: ko- はかりだ。 釜を 煎って、 それで、 皆 もう お茶
 ona: robacu zju: gonici waketeno: kjo: so: 一 をね、 五月の 十五日に 分けてね、 競争
 zjawana i: mekata toqte i: mæ: toranazjade だよ。 たくさん 目方を とって、 よい まゆを とらなければならぬから
 tokuho: zi ikuto nanbjaqkante okunzjaro son- 徳法寺へ 行くと、 何百貫と 置くんでしょう。 そんな
 nan nakadena: narudake muke: no ho: ni bucja- な 中でね、 なるべく、 向いの 方に 聞けら

keraruto ahokuse: (笑) hunde minna kjo:so:
れると ばからしい、 それで 皆 競争、

iqsjokeme:de jarunzjawa so: jaqte ke:ko
一所懸命で やるんだよ。 そう やって 蛋を

kaqte kita homde icineni sanko:kara sikme:
俯って きた。 それで、 一年に 三回から 四回

kauzjana
俯うんだよね。

K sanko:kara sikme:na
三回から 四回ね。

M imanowa haru haruno
今のは 春 春の?

K hun imanowa haru son cusi na:cukonina (M
フン、 今のは 春、 その 次は 夏蛋にね、

naçu } hun horekara dojo:ko kaqte sono cudi
夏? フン、 それから 土用蛋を 俯って、 その 次に

sju:ko kaqte bansju:ni naqte
秋蛋 俯って 晩秋蛋に なって。

M homde gokai gokai kauno icineni.
それで 五回? 五回 俯うの? 一年に、

A ndakeno æ:da na:ndi sitena: konnaran goke:-
それだけの 間 懸鐘 してね、 こねばならない、 五回

meno jacuwa tæ:te: onæbo morauanzjawa (笑)
めの ものは 大い、 女が もらうんだよ。

M ano kuzumonte iee oite arunjaro kuzuno ano
あの 原まゆというの、 家に 置いて あるのでしょ、 屏の あの

maju homde sono majuo kondo ito toqte oru
まゆ、 それで、 その まゆを 今度 糸 とって いる

wakejaro hunde sore do:ju: hu:ni jaruno
歌ででしょ。 それで、 それ どのよう ように やるの?

sono kuzuno itoo
その 屏の 糸を、

K kuzuno itoka huntowa: jaqpa ito toqte mau
屏の 糸か? 本当は やはり 糸を とって もらうべき

tokodena toqte mauno watasira jo: torandena
所だね、 とって もらうの、 私等は よう とらないの、ね、

M hunde sokoe moqteqte toqte moraqte homde
それで、 そこへ 持って行って とって もらって、 それで

do: hu:n
どう? フーン、

K toqte maqte hosite sonnaride orunja
とって もらって、 そして そのままで 織るのだよ、

M sonnarite ju:nowa
そのままと、 いうのは?

A ito toqte maqte
糸を とって もらって、

K toqte maqta ito toqtanaridena ki:tode
とって しまった 糸を とったままでね、 生糸で、

M ki:tode oruno ano hatao hun
生糸で 織るの? あの 機織を、 フン、

K hoqtekara somete morauanzjana neqte maqte
そしてから、 染めて もらうんだよね、 ねって もらって、

mukasiwa ko: ju: kimonodemonæ: iroi-ro kinu-
昔は こう いう 着物でもね、 いろいろ、 絹

itowa arewa neqtæna somete morawanarandeq-
糸は、 あれば、 ねってね、 染めて もらわねばならないで

sjaro ucide ne:ru sitomo aqtasina neqte
しょう、 家で ねる、 人も あったしね、 ねって

maqte somete mau sitomo arusi soica: iro
もらって、 そめて もらう、 人も あるし、 それは、 いる

iroja
いろだよ、

M so: ju:noo kimononi surunjaro zibunno-honde
そう、 いうのを、 着物に、 するんでしょ、 自分の、 それで、

josokara kawahenno joso
よそからは 買わないの？ よそ、

K ho:ja soica josokara kawahennojana
そうだよ。 それは、 よそから 買わないんだよね。

M ci:au kimononankawa
違う。 着物なんかは？

K kimononanka hora kau
着物なんかは、 それは 買う……

M kaukedomo zibunnowa mata zibunde oqtoruno
買うけれども、 自分のは、 又、 自分で 着ているの？

X he:so:so: zibunnowa zibunde orunjawana
はい、 そうそう、 自分のものは 自分で 着るんだよね。

soicua somete moraujade
それは 染めて もらうんだから。

A nde oba ba:cjantacimo manda kinuno kimono
それで、 おば、 着さんぽも、 まだ 着の 着物

honde jo:ke aqte sometewa kitorubana [笑]
それで、 たくさん、 あって、 染めては、 着ているがね。

M sora: siqtoruwa
それは、 知っているよ。

A mukasino monde mona to:se: no monni cjanto
昔の 物でもね、 当世の 物に、 ちゃんと

kawaqde imawa oke:ko kaunnidemo rakunawana
変るから。 今は、 お茶を、 飲んでも、 染なよね。

sute:au:zjade
捨てないでから。

K so:ja sute:au:jadena
そうだよ、 捨てないでからね。

M sute:aiqte nani
捨てないで、 何？

K sutete o:mi:na sotode kaqtarina hosite mo:
捨てて、 昔、 外で、 着たりね、 そして、 もう

iqko narutose:ba ano sana nuite maqtena
大きく なるよ、 あの さなを、 めいて、 しまってね、

site: otoite maunz:ja ke:koo' hote edagurumi-
下へ、 落ちて、 しまっただよ、 着を、 そして、 枝ぐるみ

na kuwaserundeqsunade imawa rakudesuwana:
ね、 食べさせるんですからね、 今は、 染ですよね。

A dakedo kitane:wana:
だけと、 汚いよね。

K hora kitane:wana hora kitane:wana
それは、 汚いよね、 それは、 汚いよね。

A mukasiwa nihe:ncucu soko toqtara asa iqpen
昔は、 二回ずつ、 そこを、 とつたら、 朝、 一回

toqte banni iqpen toqtana hoqie nihe:ncucu
とって、 焼に、 一回、 とってね、 そして、 二回ずつ。

K imawa so jaqte cjoqtomo soko tarahennoja
今は、 そう、 やって、 少しも、 そこを、 とらないんだよ。

atasi sitakara ikirahenka sjanto omouwana:
私は、 下から、 いきら(熱くなる事) ないかしらと、 思うよね。

A hunde kitane:wana:nde u:cukusi:wa tæ:te: mo:
それで、 汚いよ、 それで、 美しくは……、 大いで、 もう

hacizjuq:jo:kara hjakucjo:na narukonanzowa
八十ちようから、 百ちようね、 着着なんかは

hjakucjo:wa suqsuzjawana hunde kokode hata
百ちようは、 染だよ、 それで、 この部屋で、 フタ、

rokuzjo:mawa sitotanakã siziq:jo:dana site-
六畳間は、 一榻か、 四十ちよう朝に、 して

na dakede hunde hacizjo:mawa koq:iani jon-
ね、 それだけで、 それで、 八畳間は、 こちらに、 四十、

zjq:jo: koq:iani jonziq:jo:toka ucijacu:
ちよう、 こちらに、 四十ちようとか、 私の家

atarja koko rokuzjo:zjade koko jonziq:jo:to
等では、 ここが、 六畳だから、 ここに、 四十ちようと

zasikino ho:ni haciziqcjo:karana
座敷の 方に 八十ちようからね。

M honara sono soko torunowa darepa:toru mi:n-
それでは、 その そこ とるのは 誰が ？ とる？ みんな

nan
な？

K hun watasinta toru
フン、 私達が とる。

M otokono sitoniwa nani jaqte morauno
男の 人には 何を やって もらうの？

K otokono sitowa mo: te:De: kuwaseru tokidake
男の 人は、 もう、 大がい 食べさせる 時だけ

teqtaqte maudakedena <M hao kuwaseruno>
手伝って、 もらうだけだね、 < 葉を 食べさせるの？ >

hun kuwaseruno
フン、 食べさせるの。

M kodomo kodomowa nani surunoto (笑)
子供、 子供は 何を するのと？

K kodomowa ma: kuwatori gre:desuna
子供は まあ、 桑とり 位ですよわ。

M kuwadori gurai
桑とり 位？

K hu:n habun grae: rjo:ho:kara moqte t'oru
フン、 半分 位、 両方から 持って、 とる

tokiniwa kodomonidemona teqtawaseraremasukedo:
時には 子供にでもね、 手伝わせられますけれど。

M nde zenbu sitofide jaruno
それで、 全部 一人で やるの？

K hun zenbu sitoride
フン、 全部 一人で。

A ndena kokodake jabureto mauna ko:jaqte su:
それでね、 ここだけ 破れて しまふわ、 こう やって スー

su: susuqto sana dae:tari heqtaride hunde
スー ススッと きなを 出したり 入れたりで、 それで、

kokono me:kakedake kobeqteqte mau suruno-
この 前掛けだけ すっかりだめに なってしまう、 するの

dena se jaqte kuro: siteqta:njakedo imano
だね、 そう やって 苦勞を してきたんだけど、 今の

monni ju:to usontæna koto
者に 言々と うそみたいな 事。

A hona josari ke:koke: siteqte zju:nizija
そうすると、 夜中に 盗賊いを して、 十二時や

icizimade grae: hedemo ne: <K nandemo arahen>
一時まで 位は 何でも ない、 < 何でも ない >

josarini ano soko kaerusina kuwasenaran
夜中に あの そこを かえるしね、 食べさせなければならぬ

K hote zju:nizimade kuwa torudeqsjaro soreka-
そして、 十二時まで 桑を とるでしょう。

ra kuwade <M zju:nizi joru> sorekara kuwa-
ら 桑で、 < 十二時、 夜？ > それから、 食べ

sete nerudeqsjaro hoqto mo: icizidesuwana:
させてから 寝るでしょう。 そうすると、 もう 一時ですよ。

icudemo
いつでも。

M asawa asawa dono kuraini
朝は、 朝は どの 位に？

K asawa mo: gozika sokorani cjan to okiru
朝は、 もう 五時 その辺に ちんと 起きる。

A harukowana ondo irimasudena josari jonaka-
春寒はね、 温度が 成程度りますから、 夜 夜中

ni cjan to mo: zju:nizini nidoqcu: monowa
に ちんと もう 十二時に 二度という ものは、

ondo: sicizju:do iae:niwa zenzen deki:n
温度を 七十度 以外には 全然 できない。

sicizju:do te:doni site oku ondode jarunde-
七十度 程度に して おく。 温度で 測うんで

sudena: cjan to kono sitanidemo ju:ruri kiq-
すからね。 ちよんと、この 下でも いろりが 切っ

tarimasubana: mo: sicizju:do jurina:
てありますがね。 もう 七十度 より他にはね、(できない)

hacukara sijn:made sicizju:do
始めから 終りまで 七十度。

A sono ondo kura:kasuto oke:koba nde nanzjana
その 温度を くるわせると お茶が……。 それで、何だね、

sicizju:do to kimete maqtaru nde jōsari ni-
七十度と 決めて しまっている。 それで、夜 二

km:cucu okite, jaraqsqsuru ondo minnaran
回すつ 起きて 温度を 見ねばならない。

M sono ondo nanazju:doni sitekana ikanjaro
その 温度を 七十度に しておかねば だめでしょう。

soreo do:hu:ni icumo tamogtoruno sore
それを どの様に して、いつも 保っているの? それ、

K iqcumo kamo hi:densu sumi
いつも かも 火でね。 炭、

A gokanmeja roqkanme
五貫めや 六貫め。

M irorikiqte irori kiqte hōnde sokoe iretokuno
いろりを 切って、 それで、 そこへ 入れておくの?

icumo
いつも、

K iqqenni cumikonde maqte
一度に 積みこんで しまっ。

A sumibana katazumiwana nihjo: jorina dona
炭がね、 堅炭がね、 二貫よりね どの

kure: nihjo:to kozumi iqqjo:na
位。 二貫と 小炭 一貫ね。

K so:ja kozumi iqqjo:
そうだ、 小炭 一貫。

A sondake kokono enno sitano jururi kiqtarude
それだけを、この 縁の 下の、 いろりが 切っているから、

soko cumekonde maqtade
そこへ つめこんで しまっ。

M cumekomu iqte nani iretokuno,
つめこむと いて、 何を 入れておくの?

A mina cumete hoite hō:wa gjo:san-iretarūni
みな つめて、 炭は たくさん 入れているので、

ondo kimaqte maqtaru hōnde cjqto korja asa-
温度が 決まって しまっている。 それで、 少し 朝

gata sabuina:to omoqto kono itameona-cjqto
方 寒いなと、 思うと、 この 板目をね、 少し

sukaseqto sonde ondoba asaru nde mo:oke:ko
すかせると、 それで 温度が 上がる。 それで もう お茶が

asaramade hacuka nizju:gonci greiwanā ondo
あがるまで、 二十日 二十五日 位ね、 温度が

iqte:zjawa sonde sumiba unto iretarude ko-
一定だよ。 それで、 炭が うんと 入れているから、 こ

ke hunde itao cjq cjqto sukaseruto ondo-
こへ、 それで、 板目を ちよっ ちよっ と すかせる と 温度

wa aqte kurudena
が 上って くるからね。

M nacukoba owaruto bonni naruno kōnda
夏炭が 終ると お盆に なるの? 今度は、

K so: so: nacukoba owaruto obonjawanā
そう、 そう、 夏炭が 終ると お盆だよな。

M to so:suruto do: obonno jo:itoka arujaro
と、 そうすると、 どう? お盆の 用意とか あるでしょう、

iroiro
いろいろ。

K obonno jo:ite: kokora oto:ro: tombe:te
 お盆の 用意で、 ところは お禮籠を ともして

mø:ru gre:desudena: san jo:kka
 お盆へ参る 位ですからね、 三、 四日。

A zju:goncino hini me:rudakezjana hino:kure:-
 十五日の 日に 参るだけだね、 日の くれ

ni
 に。

M nannimo jo:iwa se:henno
 何も 用意は しないの？

K nannimo becupina honganzidesudena: jo:iwa
 何も 別にね。 本願寺ですからね、 用意は

nannimo se:hen
 何も しない。

A mo:oke:ko kaq:para so: detarja bokofahen
 もう お菓を 買ったなら そう 外出すると。 そこらへんへは

ikjehen higa iretarude abune:dena: ondo
 行けない 火が 入れてあるから 危険なのでね。 温度が

kimete maqtaqtemona: abune:de doqkomo ika-
 決めて しまつてあるともね、 危険だから 何所へも 行か

qzuni omahan cjoqto ikuto sika:siruni
 ずに。 あなた、 ちょっと 出かけると 叱られるので

M icumo ban sitoruno
 いつも 番を しているの？

K ho:ja icumo kamona jaqpa ucin oran abune:-
 そうだよ、 いつも かもね。 やはり、 家に 居れば 危険

desudena
 ですからね。

M oksiko kaqteru tokiwa honda so:ono sigotowa
 お菓を 削っている 時には、 それで、 外の 仕事は

si:henno
 しないの？

K ho:ja becuni soto no sidotoqtewana sono
 そうだよ、 別に 外の 仕事というのね。 その

kawari go:acuni naruto: jaqpa tanboemo ikana-
 代りに 五月に なると やはり 田んぼへも 行か

rankedona
 ばならないけれどね。

M honda rjo:ho: tanboto oksiko
 それで 両方？ 田んぼと お菓

K rjo:ho: naqte kuruwana:
 両方に かって くるよな。

M so: suruto so: ju: toki do: suruno
 そう すると そう いう 時は どう するの？

K ho: suto jaqpa cjoqto gre: onabowa teqto:-
 そう すると やはり、 少し 位、 女の人は 手強い

ni iku grø:dēna otokono sitowa icumo kamo
 に 行く 位だね。 男の 人は いつも かも

sotoe
 外へ

M a tanbowa hunde otokono sitoja jaruno
 ア、 田んぼは それで、 男の 人が やるの？

A genbekariniwana: iqte hosigenbeni sennarande
 れんげ屋にはね、 行って、 干しれんげに しなければならぬから。

um orude hosigenbeni sennarandena: ienibaq-
 居るから、 干しれんげに しなければならぬので、 家にほか

ka iterarejahende konkini mini kennaran
 り 居てはおれないので。 彼がよく 見に 帰らなければならぬ、

ondo minnarande hora hujuciwa e:na oke:ko
 温度を 見なければならぬので。 それは、 冬の間は いいよ、 お菓が

deruto mo: soreni simo:kete hujuciwa okome-
 出ると もう それに かまけてしまつて。 冬の間は、 お茶

cukimo sennarandə kimonomo nowannaranga
 つきも しなければならぬ、 齋物も ぬわなければならぬ、

hatamo.oranaranga jame:mo ikanaranga <M ja-
俄も 離れなければならぬ 山へも 行かなければならない 山

maemo.ikanaranga:ta:ra:posiraemo sennaran
へも 行かなければならない 僕ごしらえも しなければならない

ta:ra kuq kuq kuq kuqtona: imawa kanbukuro-
俄 クワ クワ クワ クワとな 今も 紙袋

zjade i:kedo tawara: minna ucide amunzjadena
だから いいけれど 僕を みんな 家で 頼むんだからね。

<M hu: N> nakanakana imamite: na kotowa ara-
フーン なかなか 今の様な 事は ない

senwana: u:
よねー

K imawana: rakusite rakusite rakusirazu nani-
今ね、 席をして、 楽をして 楽という事をしらない、 何を

jaqtorusiran:
しているのかしらん

M nani jaqtorusjantomoqte
何を しているのかしらんと思っ?

A terebi mitorunoda: sigotoja
テレビをの、 見ているのが 仕事だよ。

K hujuni naruto, nanisigoto jukidemo huruto
冬に なるよ 何の仕事、 雪でも 降ると

nanisigoto sjosiranto omowanaran
何の仕事を しようかしらんと 思わなければならない

M hu: N mukasiwa hujawa isopasikaqta
フーン、 昔は 冬が 忙しかった?

K jaqpa wafasira kodomo o:kaqtade harisigotomoto
やはり、 私等は 子供が 多かったの、 針仕事も

gjo: san nuqtokanana: kisete jaranaran sabu
たくさん 縫っておかなければねー、 着せて やらなければならない、 寒く

naruto gaqkoe mukasiwa minna tabino cusimo
なると 学校へ、 昔は みんな 足袋の つぎも

sennaransi imawa tabino cusimite: sja: hende
しなければならないし、 今も 足袋の つぎの様なもの、 しないから

e:kedo (笑)
いいけれど。(笑)

K jo: tabi gaqko iku zibunwa jo: jabuqte ku-
なく、 足袋、 学校へ 行く 時分は、 よく、 やぶって、 く

rusina
るしね。

M juki takusan huqta mukasiwa
雪 たくさん 降った? 昔は、

K gjo: san huqtana mukasiwa
たくさん 降ったね、 昔は。

A u: N u: N kuzuja o:kaqtade kanago konna jacu
ウーン ウーン、 くず家が 多かったの、 つら、 こんな のが

sa:baqtana: konna krø: sa:baqte minna kuzuja-
下ってねー、 こんな 位 下って、 みんな、 くず家の軒

no kono narandeng: konna kure: no kanao
に、 この、 並んでねー、 こんな 位の、 つらな

sa:baqte
下って。

K mi:cidemo kojaqte arukuto te: sureru kre:de-
道でも、 こうやって 歩くと 手が ずれる 位で

sitana:
したねー。

A u: u: N
ウーウーン、

K jo: rjo: ho: e aketena mannakaga æ: torudake-
よく 四方へ 雪をかき分けてね 真中が 空いているだけ

deqsjaro
でしょう。

M icu:borokara huruno:
いつごろから 降るの-?

K sora mo: sono tosono anbe:dena sjo:ðacu
 それは もう、 その 年の あんばいでね、 正月
 zibunka sjo:ðacumaeni huqta tokimo arusina:
 頃か 正月前に 降った 時も あるしね。

A jo: akesubini zju:ici:ðacu huqta toki aqtaga
 よく 秋すぎに、 十一月に 降った、 時が あったが、
 mada tanbo owarannoni
 まだ 田んぼが 残らないのに。

K senso: no hazimaqta tosisjaqtakana zju:ðacu-
 戦争の 始まった 年だったかね、 十月
 no zju:sannicika zju:ici:ðacuno zju:sannici
 の 十三日か 十一月の 十三日か

huqta kotoba aruwana:
 降った 事が あるよね。
 M hu:N
 フーン。

A zju:ici:ðacuni na mada aki shimawamuçini
 十一月にね、 まだ 秋仕事をしまわいうちに、
 K mi:nna tanbo kaqtenajacuo nisi: minna nete
 みんな 田んぼの 刈らないやつを、 西の方へ みな ねて

maqtena: hiðasino ho:no sumatekara kaqta
 しまつてね(稲刈)、 京の 方の 隅から 刈った
 koto aru
 事が ある。

A hokubi konna monni orete maqta
 郡の借官が こんな ように 折れて しまった。
 M ðe imawa so: so: huraheN
 それで、 今は そう、 そう 降らない?

K imawa zinko: o:nagadena: huraheN (笑)
 今は 人口が 多くなったからね、 降らない。
 M hu:N
 フーン。

A hora: mo: mukasiwa sitoni hanasen kre: na-
 それは もう、 昔は 人に 話せない 位 粗
 Ngi sitekita mo:nzjawana: nacukasi: kre:
 僕を してきた ものだよね、 候しい 位。

M Nnara sore cjoqto hanasite sore cjoqto
 それでは、 それを、少し、 話して下さい、 それを、 少し。
 A sate korecju: kotozjakedomona jaqpa tawara-
 さて、 之という 事だけだね、 やはり 僕

ðosire: sja: omahan wara suðuqtari nawana:-
 ごしらすを、 すれば、 あなた、 わらを、 すぐったり 聞かない
 ða iciban erakaqta koko mukete mauwana:
 が 一番 疲れた。 ここが、 むけて、 しまつたよね。

kojaqte hosona: nawankotoniwa ome: oñuroe
 こうやって 細脚を、 なわいな明には、 あなた、 おふろへ
 hæ:re:heN <M nande> nandeqcju:te hima mora-
 入れない。 なぜ? なぜといて、 霧を もら

eheNða sju:tosan gozaqte mijo <M hu:N> ome:-
 えなくてしょう、 しゅうとさんが、 いらっしょって、 みなさい、 <フーン> お前
 ra ano sju:tosanja ziqsa gozaqtana sju:tosan
 ら、 あの、 しゅうとさんや、 じいさんが、 いらっしょって、 しゅうとさんが

gozaranandara mo: nejoka:qte icime: taqta
 いらっしょらなければ、 「もう、 ねよか」といって、 一枚、 唯の
 icywa no:te sonde suqto nurarerukedona:
 一枚だけ なくて、 それで、 すつと 獲られるけれどね。

nakanaka sju:tosan mo: anta tawara
 なかなか、 しゅうとさんが、 いられると、 もう、 あなた、 僕を
 miçcu gre: andanjazo
 三つ 位、 編んだんだよ。

K e:N icucu gre: andawa
 いー平、 五つ 位、 編んだよ。
 A honni jonabenja hundake amunzjaða sondakeno
 本当に、 夜なべには、 それだけ 編むんだが、 それだけ分の

nawa nawa no:te kunzjan zjunbani
飾、飾を なって ゆくんだよ、顔々に。

M hu:n
フーン。

K hoqte jaqpa otokono sitowa otokono sitodena:
そして やはり、 男の 人達は 男の 人でねー、

mukasiwa tawaradesitajaro hunde minnana
昔は 僕だったでしょう、 それで 全部の

tawarano nawa to:sanarandesuna kucinawa
僕の 飾を 通さなければならぬですよ。 口飾を

to:sanaransi ue karagerunomo minna hutoi
通さなければならぬし、 上を かけるのも みな、 太い

nawana minna otokono sitowa ko:ju: hutoe:
飾ね、 みな 男の 人は こういう 太い

nawa onagowa hose: nawa
飾、 女は 細い 飾。

A hundakeno wara-utanan omahan nurehenana
それだけの わらを 打たなければ、 あなた、 寝られないがね。

wara uqte morawana onadono ke:sjo:de
わらを 打って もらわなければね、 女の、 かいしょうで(でかいから)。

K hunde otokono sitowa kanuciqtena kan sjo:-
それで 男の 人は 毒打ちと言っね、 毒、 正

oacu subiruto hucukawa ucizomezjaqteqte
月が すぎると 二日は 打ちぞめだと言って、

nde warauci sitanzja
それで、 わら打ちを したんだよ。

A sjo:oacu hucukano hiwana: asa tæ:te: ohiru-
正月 二日の 日はねー、 朝は 大い お昼

made waraucizjaqta hucukano sizome imawa
まで わら打ちだった。 二日の しぞめ、 今は

warauci se:hendena: raku naqtetawa
わら打ちを しなからねー、 案に なってきたよ。

M jamaemo iqta
山へも 行った?

A jame: ikana takimon arahenana [笑] imanojo:-
山へ 行かなければ、 たき物が ないがね、 今の様

ni gasuzatara nanzjataraqteqte takimon
に ガスだとか、 何だとかいって。 (昔は)たきぎ

icimakizjade do:nto takimonde na:sen koto-
ばかりだから どんと たきぎで 準備しない 事

niwana: imawa gasuzatara nanzjaqteqte
にはねー。 今は ガスだとか、 何だとかいって、

takimontamo ohurodakezjade irahenkedona:
たきぎなど おふろだけだから 要らないけれどね、

dondake hunna mono jame: iqte imawa mina
どれだけ そんな もの。 山へ 行って、 今は みな

rijakaja kurumade iqtaru ite iwæ:tani oku-
「リャカーや 車で とりに行ってやるといって 言われるけれど、 美

made <K oinate> oinetena:
まで せおって せおってねー、

A hote micibatano azeno take: tokode iqpuku
そして、 道ばたの あぜの 高い 所で、 一休み

sitewa hositewa oinete keqtekitano ndemo
しては、 そうしながら せおって 帰って来たの、 それで、

icinicini hutake:ricucuwa susuq sitano
一日に 二往復ずつは 寝々と したね。

K mukasino monno koto omouto imano mon asun-
昔の 者の 事を 思うと、 今の 者は 遊ん

dorujona monja kedo hondemo sondemo isona-
でいる様な ものだ。 けれど、 それでも、 それでも、 「忙

si: isogasi:qteqte [笑]
しい 忙しい」と言って。

M uhuhu isogasi:
ウフフ、 忙しい……

- A isobasi: isobasi:
忙しい、 忙しい……
- X kodomodemo jama ikuno
子供でも 山へ 行くの?
- K e: kodomodemo jame:na gaqkokara socubjo
ええ、子供でも 山へね、 学校から 卒業、
- gaqko agaqtte kuruto ci:se: kaŋo oinetewa
学校から 帰って くと、 小さい 籠 せおってば
- iqtano
行ったの。
- A nna sjo:kozijame:na kodomo gonimo rokuni-
ね、 ヨーコ寺山へね、 子供が 五人も 六人
- nmo curaqtte hasiruwana: nakanaka ta:raamiwa
も 遅れだって 走って行くよね。 なかなか 依頼みは
- kokoŋana: surerusi:
ここがね、 隠れるし。
- K minna kokoŋa kimono jaburete maqte ko:ju:
皆 ところが、 着物が 破れて しまっ、 こういう
- tokoni hibi iqpe: kiretagana:
所に ひびが 一ぱい きれたがね。
- A ucijaqtara ozizisa omŋ: anda jacuwa akan
私の家では おじいさんが 「お前の 痛んだ のは だめだ、
- sime:de: nawa naeqteqtte huqte nawane:baqka
彼がしまらないから、 綿を ないぢさい」と言っ、 して、 俺ないばかりを
- suserareta
させられた。
- M nde jamae iqtarasa iroiŋo maqtaketoka aru-
それで、 山へ 行ったらさ、 いろいろ、 松茸とかが ある
- jaro: so:ju:nowa jama
でしょう。 そういのは？ 山、
- X maqtakewa ano akide nakerana he:re:hendena
松茸は あの、 秋で なければ 入れないからえ。

- nacu aki
夏 秋、
- M jamae kinoha kakini iku tokiwa
山へ 木の葉を かきに 行く 時は？
- K huŋna zibuŋ araheŋ nannimo araheŋ jamaakeni
そんな 時分は (松茸は)ない、 何も ない 山開き後に
- ikutose:ŋa hjoqto suqtona: minokosika oso-
行くと ひよっと するとね、 見張しか 遅
- deqte jacukaba aru tokimo aqtakedona <M mi-
く出てきた ものが ある 時も あったけれど、 見
- nokosi a: so:ka huŋhuŋ torasita atonona
張し？ ああ そうか、 フンフン 他人がとられた 後のね、
- minokosiŋana oso: deta jacuka nanja sjanke-
見張しがね、 おそく 出た ものが 何か しらないけ
- do hjoqtosuruto iqpoŋmo aqta ka sjanba meq-
れど、 ひよっとすると 一本も あったか しれないが、 めっ
- tani ne:wana
たに 無いよね。
- M hu:N
フーン。
- A zju:iciŋacuno hacukazjade
十一月の 二十日だから。
- K hacukaba jamaakejaqtadana
二十日が 山開きだったからね。
- M baŋsju:no atono kaikote kawaheŋno mo:
晩秋の 後の 暮って 開かないの？ もう、
- K baŋsju:wa baŋsju:no atono baŋbaŋsju:qte
晩秋は、 晩秋の 後の 晩々暮って
- jacuŋa aru
ものが ある。
- M aruno arukedo kawaheŋno kokoraheŋwa
あるの？ あるけれど 假わないの？ ころあは、

K kaqtakedona: soicuo cjoboqtoka kawaheNwana
買ったけれどねー、 それを 少ししか 買ったよーね。

A cjoboqtona: muradake de kauna:na
少しねー、 村だけで 買うのだね。

M muradake
村だけ？

K kuwa toqtana: nacuja nacukoja sju:koni to-
妻を とったねー、 夏や、 夏軍や 秋祭に と

qta sakiqpoBa nokoqtorunja uewa hondena
った 先陣の方が 残っているんだよ、 上の方は、 それでね、

M hu:N kuwaBa nokoqtoruno haBa nokoqtoru-
フーン、 妻が 残っているの？ 妻が 残っているか

de Nde soicude cjoboqto kaqtadakejawana:
ら、 だから それで 少し 買っただけだねー、

banban sju:te ju:tose:Ba
晩々秋と いうと。

A soicuo cjoboqto kautona: mo: uci: sonna
それを 少し 買ったとね、 もう 家は そんな

oke:kosanna zeni ateni sitorahende sonna
お婆さんの 銭は あてに してないから、 そんな

zibuNwa soicu uqte hoite icinonijamade ito
時分は それを 売って、 そして 一宮まで 糸を

ke:ni iqte soicude hata orunzjana
買いに 行って、 それで 機を 織るんだよね。

M ito kajini ikuno kondowa: nde hata oruno
糸を 買いに 行くの？ 今度は、 それで 機を 織るの？

A ito ke:ni iku zeni kosaerunzjana hoqte mi-
糸を 買いに 行く 銭を こしらえるんだよね、 そして、 機

nnano kimono huju kosrunzja hunde hata
の 着物を 冬に 作るんだよ、 それで 機を

orananan soica ucizju: atekotoni
織らなければならぬ、それを 家中の君に 売ってやる。

M ano zibundokode kirunowane: hode zenbu iede
あの、 自分の所で 着るのはねー、 それで 全部 家で

oqtano
買ったの？

K huN ucide oqtano
フーン、 家で 買ったの。

M hata Nde kawaheNno so: ju: kizija nanka
機？ それで、 買わないの？ そう いう 布地や 何か、

A kawaheN cjoqto kawaheN zenbu oqtano zibu-
買わない、 少しも 買わない、 全部 買ったの、 自分

Nde nannimo kawaheN kimono haqkakedemo ura-
何も 買わない、 着物や はっかけでも 裏

demon: minna oqtan sima zibunde hanko osi-
地でもねー、 皆 買ったの、 柄は 自分で もようを おし

te koserunzjade
て 作るんだから。

M hona icinenzju: isobasi:ne:
それでは 一年中 忙しいわー、

K isobasi: sora icinenzju: cjoqto himanaqte
忙しい、 それは 一年中 少しも 暇なという

koto arahen
事は ない。

問 経済的な面その他

M honara ano: joso ikutoka arahenno so: ju:
それでは あのー、 よそへ 行くとかは ないの？ そう いう

koto asobini ikutoka
事は、 遊びに 行くとか

K asobinja meqtani ikahenandana:
遊びには めったに 行かなかったわー。

M hu:N okaqtemo anzjaro
フーン、お勝手仕事もあるんでしょう？

K okaqtemo sennaran (笑)
お勝手も しなげはならない。

M hona omacuriwa
それでは お祭りは？

K omacuriwa: mo: okjakusan jobannaransina:
お祭りには もう お客さんを 呼ばなければならぬしねー。

sode jaqpa josono omacuriwa hora: ikuwana:
それで やはり、よその お祭りには、それは 行くよねー。

M hu:N kaikote dono kurai toreruno zenbude
フーン、買って どの 位 とれるの？ 全部で、

icineNde
一年で、

K doNna kure: toretajaro icineNde
どんな 位 とれたらうか、一年で、

A ho:zja mukasiwana:
そうだね、昔はねー……

K mukasja: gozjuqkan gre: toqtaka wakaranna:
昔は 五十貫 位 とったか わからないねー。

A hu:N sozjakedona: atakusinta: koko kitani
フーン そうだけれどねー、私達が ここへ 来た時に、

okome taka:pa ima iqppo:de mukasidemo iqp-
お米は たかが、今 一俵で、昔でも 一

jo:wa iqppo:zjana jonto goendesitani
僕は、一俵だね、四斗が 五円でしたが。

M naniða
何が？

K okome iqppo:ðana goenzja kjo:bi nanase:eN-
お米 一俵がね、五円だよ。今は 七千円

deqsjaro goendesitana sondemo sinsjo: jaq-
でしょう。 五円でしたね、それでも 身上を 保つ

tetan amedama sitocuboja honna koto ju:to
てきたの。 餅玉 一粒だ、そんな 事を 言おうと

warawarerukedomona: (笑)
笑われるけれどもねー。

A ho:ja jo: jaqte kiqteqtaqta goendesitanna
そうだ、よく やって きたという程なのだ。五円でしたね。

kome iqppo:buNno <K zju:roqku ima zju:roq>
米 一俵分の……。 十六、 今 十六……

M kaikowa dono kurai
番は どの 位？

A ke:kowa tæ:te:
番は 大い。

K gozjuqkan gurai aqtajaro icineNde
五十貫 位 あったでしょう、一年で。

A gozjuqkan gre:zjaroke:na harukodakedemo
五十貫 位であるもんかね、春番だけでも……

K harukodemo sanzjuqkanno sanzju: goroqkan
春番でも 三十貫の、 三十 五・六貫。

A sanzjuqkan nanteqdena so: jaqte jaqteqtemona:
三十貫とか何とかだね、 そう して やってきてもねー、

sondemo me:ða ano komeno oita monzjadena:
それでも まゆが あの、米の

ohazukasi: jona monzjadana: hndemo nanzja-
お米がかしい 程な ものだからねー、 それでも 何だ

wa ikura gure:ni iqtana ande
よ、いくら 位に なったかね、あれで。

K ikura gre: tote.mo: oboe
いくら 位 とれ…… もう 覚え……

A zju:goenno toki aqtana: nacuko huqtana:
十五円の 時が あったねー、 夏番、 そしてねー、

M iqkanða iqkanmeða
一貫が？ 一貫めが？

K zjuqkaNme <A zjuqkaNmeθana> ano
十貫め 十貫めがねー あの、

M zjuqkaNmeθa zju:goen
十貫めが 十五円？

A ami korewana: me:wana:
之はねー まゆはねー

K zju:goenmo sitakasiran
十五円も したかしら。

A nanzja aye ame ano aβeta tokinina ame:
何だよ、 あげ、 雨、 あの、 あげた 時にね、 雨が

huruto sono me:ga tataNdena: ki:toja dasan-
降ると その まゆが たたないからねー、 生糸を 出さない

de honde jaqsuikedo aβeta tokino otenkiga
ので、 それで 安いけれど、 あげた 時の お天気が

e:tejaqjato unto tako: kaqte kudena: hun-
よいという場合は うんと 高く 買って 行くからねー、 それ

de sono tokino anbe:desuwa korewae: <M nan-
で その 時の つごうですよ、 之はねー。 > どうし

de kawaitoruto i: otenkide
で 乾いていると いい > お天気の関係で。

K otenki e:tona itono taci ga e:no me:wa itono
お天気が よいとね、 糸の 質が よいの、 まゆは 糸の

taci ga
質が。

A hunde okae:koabe sitemona simekiqtoqte akika-
それで お紙あげを してもね、 閉めかけていて

N ho:qto ko:jaqte me:o cuqcuqto suqtokja
こうやって まゆを ヅツッツと

itokuci:ga mina kawete kurudeqsjaro amedemo
糸口が みな 乾いて くるでしょう。 雨でも

huqte siketa tokja itokuci:ga minna me: ko-
降って しかた 時は 糸口が みな、 まゆを 作

se:te kunoni itokuci:ga hiquitemaun hunde
って 行くのに、 糸口が ぐっついてしまうの。 それで

ano: zjoko: sanθana ito torunoni cjoqto mo
あのー、 女工さんがね、 糸を とるのに 少しも

taqte konnozjawana karakararakara taqcu
たって こないのだよ。 カラカラカラカラ タツ

itokuci:ga sikete maqtoru hosuto me:ga unto
糸口が しくて しまっている。 そうすると まゆが うんと

jaqsuidesuwa aqko ucintowa o:so: kawasitade
安いですよ。 「あそこは 私の所より 遅く 倒いなさったので

asokowa tako: uqtatokana cjoqto hajo kaqta-
あそこは 高く 売られた」とかね、 「少し 早く 倒った

de me:no taci ga waruide: jasuitokaqtena:
為 まゆの 質が 悪いので 安い」とか言ってねー。

dæ:bunto hunde icinenni toruna harukodakede
大分に、 それで、 一年間に とるね 春蚕だけで

sanzjuqkanja jonzjuqkan torudeqsjaro mo:
三十貫や 四十貫 とるでしょう。 もう

sono atokarawana: sotode hasa cunde kimase-
その 後からはねー、 外で 桑を 搦んで こなければ

Nnarandena: uci: torikome: hende Nde sukuno:
なりませんでねー、 家へ とりこめないで、 それで 少なく

narimasuwa
なりますよ。

M Nde harukowa iciban o:i
それで 春蚕は 一番 多い？

K un harukoba iciban o:iwana harukoto sju:ko
ウン、 春蚕が 一番 多いよ、 春蚕と 秋蚕

teq jacujana
というのがね。

A iciban o:iwana:
一番 多いよねー。

K atowa mo: dojo: kojara nacukowa ano: acui
 その他は もう、 土用紙や 夏張は あの、 傘い

tokijade so:mo kaemahenjarō kozewasi:dena:
 時だから、 そう多くも 願えないでしょう。 忙しいので、

joke: kuwasete kannarande
 よけいに 食べさせて いかねければならぬので。

A dæ:te: hacukade aqaqte maude
 大体 二十日で あがって しまうから。

K un hacukade aqaqte maudena: nde joke kaena-
 ワン、 二十日で あがって しまうからね。 それで よけいに とりかえ

ran
 なければならぬ。

A harukowa sitocukizjaqtana
 春張は 一月だったよね。

M hunde kaikono okaneto sorekara okome okome
 それで 玉の 代金と、 それから お米、 お米、

okome okomeo uqta, okane
 お米、 お米を 売った 代金。

A ndakezjana soda sju:nju:ni haruno
 それだけですね。 それが 収入に なるの。

K so: so: otokono sitowa jame: iqte takimon
 そり そり、 男の 人は 山へ 行って 大きなもの、

warikino iqsokumo surudake
 薪木の 一束も するだけ。

A hora ima nanase:enmo okome sitemo iqpe:iq-
 それは、 今 七千円も お米の値が しても 一ぱい—

pe: hontono hanasiga goenno okomezjaqtoqte
 ばい、 本当の 語が。 五円の お米だといっても、

hunara sjaqkin haciwara naqtakto i:ja
 それでは 借金が 一ぱいに なったかと いうと

do:ka ko:ka mawaqte kugana: kore takaba
 どうか こうか やりくりして 行くがね。 これ、 借か

goendaqtana goenno komede kore se:kacu
 五円だったね。 五円の 米で、 これ、 生活を

site kitannade buka sono:
 して きたんだから。 物価、 その—

K sono kawari imamite:ni ze:taku se:henwana:
 その かわり、 今の様には ぜいたくを しないよね。

osato nankademo omacuri gre:hoka taberarehe-
 お砂糖 かんかでも お祭り 位、 しか 食べられない

nanda otohudemo imawa hudandemo to:hu:ziru-
 かった。 お豆腐でも 今は 平葉でも 豆腐汁

kananka (笑) <A oto:humo atarahen otohūmo
 か何か、 お豆腐も あたらぬい> お豆腐も

atarahen mo: omacuri gre:dena: nakena nan-
 あたらぬい。 もう お祭り 位でね— なければ、 何か

zoboto nakerana otohūmo atahennanda
 事が なければ お豆腐も あたらなかった。

A huna kure:ni site ita monzjwana hora okome
 そんな 位に して いた ものだよね。 それは、 お米が

goenno tokininanzo jukata icime: kaqte nie-
 五円の 時なんかは 浴衣 一枚 買って 二円

ndaqtani
 だったのに。

M kodomowa kodomoqte takusan irukedo dono
 子供は? 子供って、 たくさん いるけれど どの

kurai
 位?

K kodomoka: <M nannin gurai> watasiwa: ano:
 子供か—、 <何人 位?> 私は、 あの—、

gjo:san (笑) watasiwa gjo:san undade gjo:san
 たくさん、 私は たくさん 産んだから たくさん

oqtakedo
 居たけれど。

M oba: sanwa hutarija
お婆さん(Aの事)は 二人だね。

A u: N Ba: cjan hutari
ウーン、お婆ちゃん(自分)は 二人。

K watasiwa rokuni N
私は 六人。

M mukasiwa o:ikedomo
昔は 多いけれども。

A hu:na koto ju: zjakedo ome: kitamija jaqsa-
そんな 事 言うけれど、 あなた、 北のやの やすさん

ntademo kunimmo unda:wana minna imawa min-
(人名)等でも 九人も 産んだよね。 昔、 今は 昔

na se:nde sitemaude umankedomona: hajo:wa
制限 してしまうから 産まなければね、 昔は

nanzjana mukasiwa minna roku hicininwa
何だね、 昔は 昔 六、 七人が

hucu:daqtawana <K so:ja hucu:jaqtawana:>
普通だったよね。 そうだ、 普通だったよねー

rokuninwa ciqto hiqtoi sitowa hontoni kuni-
六人が、 少し 結構な 人は 木当に 九人

Nja zju:nin su:uni
や 十人は すぐに。

K zju:ninmo umasita sito arunjadena
十人も 産みなされた 人も あるんだからね。

A kitano jaqsa: mijo kunimmo undani (笑) son-
北の やすさんを 見ない、 九人も 産んだんだから、 それ

demo minna
でも 昔……

K atasimo minna atasimo hicinin undakedo
私も みんな、 私も 七人 産んだけれど

sitoriya mo: sjo:wani naqtekara umaretanja-
一人は もう 昭和に なってから 産まれたんだか

de <M hu:N> <A hontonina> atowa rokuniwa
ら、 フーン 木当にね その他は、 六人は

hajo:no ucini undadena?
早い 間に 産んだからね。

A kono maeno kazo:santacidemona hici hacinin-
この 前の家の 高坂さん等でもね、 七、 八人

mo kunimmo
も 九人も。

M hu:de minna genkijano
それで 昔 元気なの?

K e: uciwa minna okagesande (笑)
ええ、私の所は 昔 おかげ様で。

A minna mo: sjo:to: moqte ma:osan aru
昔 もう 世帯を もって、 孫さんも ある。

M nde erakaqtane: hondemo takusanjade
それでは 辛かったでしょうね、 それでも、 たくさんだから。

K un hundakeno ko kisodate sennarandena:
ウーン、それだけの 子供を 着育て しなければならぬでね、

imano ano: iciban sitano sjo:wa naqtekara
今の あのー、 一番 下の 昭和に なってから

undanowa arewa mo: ano zibunwa haja kodomon
産んだのは、 あれは もう、 あの 頃は もう 子供の

tokikara hukudesitadena:
時から 洋服でしたからね。

M huku soremadewa kimono
洋服、 それまでは 着物?

K hun soremade kimono soremaeno rokuninwa
フーン、それまでは 着物、 それ以前の 六人は

minna kimono nuqte sitatemasiqteewa kise-
昔 着物を 縫って 仕立てましては 着せ

tanjadena <M zibunde oqte> he: zibunde
たんだからね。 <自分で 縫って?> へー、 自分で

oqtewana:
戦ってはね。

A nde gaqko:e ikundemo hakama hm:te iqtanja-
それで、学校へ 行くのでも 袴を はいて 行ったんだ

wana: hona imanona: hukuzja: arahen minna
よねー。 そんな 今の様な 洋服は ない。 皆

nanzogotojato hakama otokodemo onadodemo
何事かの場合は 袴を、 男でも 女でも

hakamazjadena
袴だからね。

(3) 戦争中の思い出

録音日時 1967年3月3日
録音場所 垂井町岩手藤原
浅野ふみえ氏宅

話し手

(略号)	(氏名)	(性別)	(生年)	(職業)	(居住歴)
K	黒玉きぬえ	女	明治32年生	農業	大垣市字付(0~18) 垂井町岩手藤原(18~)
A	浅野ふじえ	♀	26年生	♀	垂井町府中市尾(0~18) 垂井町岩手藤原(18~)
M	浅野ふみえ	♀	昭和21年生	学生	垂井町岩手藤原(0~)

解説：(1)空襲に逃げまわった事(p.52~p.59)

(2)食糧事情の苦しかった事(p.59~p.68)

(1) 空襲のこと

M hona senso:cju:no hanasi site mao:ka senso:-
それでは、戦争中の 話を して もらおうか。 戦争

cju:
中、

K senso:cju: [笑] senso:cju:wa osorosikaqtade
戦争中、 戦争中は 恐ろしかったよ。

bo:ku:go: [笑]
防空壕、

A bo:ku:go: dondake heqtajara siren ome:nta
防空壕に どれだけ 入ったやら わからない、 お前等は

konna monzjakedo ondeja heqtanja
こんな位の 大きさだったけれど、 背負っては 入ったんだよ。

M onde haiqta
背負って 入った?

K watasira:demo hideowa mo: josari bo:ku:go:
私等でも 秀雄は もう一 夜中に 防空壕、

anni ano: sairen narutose:wa cja:qto soko-
あれに あの、 サイレンが 鳴ると すぐに そこ、

rahen okite maqkurokejasi okitena o:bi:
らへん、 起きて、 真暗だし、 起きてね、 帯、

obi sahe: kojaqte tesaburide obi toqte hoq-
帯を さがして、 こうして 手探りで 帯を 取って、 それし

te senakani onde maqtano
て 背中に 背負って もらったの。

M na:nde watasi ciqjakataqju:te watasi uma-
どうして? 私 小さかったと言うけれど、 私は 生ま

retorahenjo
れていないよ。

K umaretorujaro anta nannenmarejano
生まれているでしょう。 あんたは 何年生まれなの?

M watasi nizju:icinenjawa <K a: ho:ka hunde-
私は 二十一年生れですよ。 あー そうか、 それで

wa > umaretorahenjo watasi <K so:ja >
は、 生まれていないよ、 私は、 そうだ

A senso:suɔizja
戦争すぎだ。

K senso:suɔijano watašin dokowa zju:jonenni
戦争すぎだね、 私の 所は 十四年に

umaretorun iciban sime:ɔana:
生まれているの、 一番 終りがね。

A nanzoto bo:ku:ɔo: ucino jomesanwa amidasan
何かと、 防空壕へ 家の 嫁さんは、 阿弥陀さんを

sitocu icumokamo senakani oinete aruite
一体、 いつかも 背中に 背負って 歩いて

gozaqta
いられた。

M hu:nan amidasanqte nani
そんな、 阿弥陀さんって 何？

A hotokesan amidasanqte siranjo:na sito (笑)
仏さん、 阿弥陀さんって 知らない様な 人、

kono sito nasakenai koqɔjawa amidasanqte
この 人は、 情ない 事だよ、 阿弥陀さんって

siran kono sito
知らない、 この 人、

M oinetoruqte nani
背負っているって 何？

A senakani oinetorunzjana honde iqsjo:kenme:
背中に 背負っているんだよね、 それで 一所懸命

hasiqte aruitorunzjana: bo:ku:ɔo:e he:rana-
走って 歩いているんだよね、 防空壕へ 入らなければ

ran kona uci hoke:te:tena: urano hatakeno
ならない、 こんな 葉は うち捨てておいてね、 裏の 畑の

bo:ku:ɔo:eto amidasan sitocu watenta sonna
防空壕へと、 阿弥陀さん 一体、 私達は そんな

mon hoqte mosi donna koqte me:me:ni ano:na:
もの 捨てておいて、 もしかして どんな 事で、 めいめい、 あのね、

jakaretara me:me:ni dokoedemo niɔho:kezja-
焼めれたら めいめい 何所へでも 逃げ炊第だか

de minna kosinina: sanze:ka go:se:ne:ncucu
ら、 皆 腰にね、 三千元か 五千円ずつ

dokodedemo kucisugi ko:teku:rujo:ni me:me:
どこでも 口過ぎ 蒙ってくる事ができる様に、 めいめい

hotokoroni icumo kamo kosini me:toqtanzjana
畑に いつも かも、 腰に 巻いていたんだよね、

nna sitotoko jorerujara jorenjara wakarabe-
それは、 一所へ 集まれるやら 集れないやら わからない

nde nigete aruita tokini nde minna ma: go-
から、 にげて 歩いた 時に、 それで 皆 まず 五、

rokuse:en moqte aruitorusi doko:zokanzode
六千円 持って 歩いているし、 どこかかんか

kucisugi suruzjaro miqka:ja joqka nde so:
口過ぎ できでしよう、 三日や 四日間、 それで そう

jaqte minna me:me:ne hotokoro zeni moqte
やって 皆 めいめいの 懐に 銭を 持って、

hote siboto sitoqtanja
そして、 仕事を していたんだよ。

M honara he:taini iqtajaro
それでは、 兵隊に 行ったでしょう。

A un to:cjanka sono e:dadaqte ba:cjanto zi:-
ウン、 父さんか、 その 間でも、 婆さんと じい

cjanto hutariɔiri hote ka:cjanwa senso:ni
さんと 二人だけ、 そして 母さんは、 戦争に

naqte kitakedona sojaqte jaqte ka:cjan ziq-
なって後に 来たけれどね、 その様に して 母さん じい

sato wasidaqte icu nandoki bjo:nimni ari
さんと、 私だって いつ 何時 病人に

minna zeni moqte honde tanboe iqte hotokoro
皆 銭を 持って して 田んぼへ 行って、 畑に

zeni maqte sa: iqta tokini me:me: kucisuhi-
 銭を 持って さあと いった 時に めいめい 口過ぎの

zjanamo: honamo to:santa ba:sandano iqtera-
 為ですわ。 そんなもの、 父さんとか 婆さんとか 言っでいら

rejabendena: me:me:ne'no kucisuhi sé:naran
 れないのでね、 めいめいの 口過ぎを しなければならぬ。

honde cja:nto zibunno hotokoro
 それで ちゃんと 自分の 横。

M hona kodomowa do: sitano a: so: mo: o:ki:ka
 それでは 子供は どう したの? ああ そう もう 大きいわ。

sono kotowa
 その 横は。

K he: kodomo mina gaqko: iqtoqtadena gaqko:-
 はい、 子供は 皆 学校へ 行っていたからね、 学校

dewa jaqpási hinankuren jarananka osiete
 では やはり 避難訓練 やら何かを 教えて

maqte jaqtoqtadeqsjaro do:sena
 もらって やっていたでしょう、 どうせね。

M hidokaqtano kokorahen
 ひどかったの? こころは、

K hidokaqtawana: <A u:n u:n> ho:jakedomo
 ひどかったよわ、 <ウーン、ウーン> そうだけれども

jakerujo:na kotowa nakaqtadena: bakudān
 掛ける様々 事は なかったからね。 樂隊や

sjo:judan ocirujo:na kota: nakaqtade jōka-
 演習種が 落ちる様々 事は なかったから よか

qtande
 ったのよ。

A ano taruie ocita tokini osorosikaqta koto-
 あの、 土井へ 落ちた 時は 恐ろしかった 事

na: hiqdoi otozjaqta mo:
 ね、 ひどい 音だったよ、 もう。

K o:baki oqta tokimo hidokaqtadena:
 大皿へ 落ちた 時も ひどかったからね。

A hosite ociruda hōe:ka kemuri haja: avaride:-
 そして 落ちるや いたや 煙が すぐ 上りだした

tadena:
 からね。

M biqkuri sjta
 びっくり した。

A biqkurimo hecjakre:mo
 びっくりも 何も……

K atasira anmari bi:nizju:kuka nanzja siran-
 私等は 余り、 B二十九か 何か 知らない

kedo nisikara gjo:san kitade tanboni oqte
 けれど 西から たくさん 来たから、 田んぼに 居て、

kakino kino sjtani oqtakedomo osorosikaqta-
 柿の 木の 下に 居たけれども 恐ろしかったで

jaro hundē cjaqto ke:qte kitara ke:qte ki-
 しょう、 それで すぐに 帰って きた所、 帰って き

te otobuci mataqka matabankani doqkanjo
 て 入口を またぐか またがんかの間に ドッカンと。

biqkuri cuite mata tobideqte magta [笑]
 びっくり して 又 とび出して しまった。

<A hōntoni> son tokja: o:bakinona: ano ano
 <ほんとに> その 時は 大皿のお、 あの、 あの

mukasi asokoni zjo:baqko: aqta njakedo imawa
 音 あそこには 女学校が あったんだけど、 今は、

mukasino ko:bumbaqko:no asokono awm:sae
 音の 興文学校の、 あそこの 間へ

oqta tokizjaqta
 落ちた 時だった。

A hūntoni oiwake nando oqta tokino otōna
 本当に 追分 なんかも 落ちた 時の 音はね。

M biqkuri sitano
びっくり したの？

K biqkuri cuita i:doi otojaqta iqtan otoBuci
びっくり した。 ひどい 音だった。 一旦 入口へ

he:runarijaqtadena: mata biqkuri cuite so-
入るといきなりだったからね、 又 びっくり して 外

toe tobide:teqta (笑)
へ とび出していった。

A osorosikaqtamona: doNdake hontoni
恐しかったものね。 どれだけ 本当に、

K ta:Nboni oqtetena: muBi karu zibunDemo na:-
甲人様に 居た時ね、 妻を 刈る 頃でも、 どう

nde minna muBi karuni usi hokai usino cuka-
してか 皆 妻を 刈るのに 牛を 捨てて、 牛を 使

qte gozaqtemo usi hoke:te:te minna niBeteq-
って、 いられても、 牛を うち捨てておいて 皆 逃げて行っ

te mawaqserude na:Ndejaroqtana
て しまわれるので、 「どうしてだろう」と言っ

A do: do: do: do: to: tona:
F- F- F- F- とね。

K gjo: san kurumonjade minna mo:he: miteja
たくさん 来るものだから、 皆 早く 見つけて

minna niBeteqte mawaqseru watasira muBi
皆 逃げて行って しまわれが。 私等は 妻を

kaqtoqtade siranandara hositara mina nande
刈っていたか 知らなかった所、 そうすると 皆 どうしてか

uma usijara hoke:te:te iqte ma:rujaro hosi-
屋や 牛やを うち捨てておいて 行って しまわれるでしょう。 そうす

tara hositara gjo: san kitajaro hositara
ると、 そうすると、 たくさん 来たでしょう、 そうすると

to:mjo: san de ano nanja sjan otoitanjavana
燈明さん(堀野)へ あの、 何か しらを 落したんだよね。

◀ M hu:N ho:ja ▶ hu:nde watasira cjaqto muBi
フーン、 そうなの？ それで 私等は すぐに 妻を

sokunjuitaru awm:sae ko: jaqte kakuretake-
東ねておいてある 聞へ。 こう やって かくれたけ

dona: ho:to sokobaqkademo orenandade mata
どね、 所が そこばかりにも 居られなかったから 又

kino aru tokoe hasiteqte maqta ano tokja
木の ある 所へ 走って行って しまった。 あの 時は

osorosikaqtawana:
恐しかったよね。

④ 食糧事情のこと

M dareka sjan koqcino ho:ene minna sokaisite
誰か しらぬが こちらの 方ね、 皆 疎開して

miettaqte
きていられたって？

K ho:zija minna soke:site kitena
そうだ、 皆 疎開して きてね。

M macino ho:no sitoBa
町の 方の 人が？

K hu:N maci watasimo to:kjo:karana: imo:toBa
フーン、 町 私の所も 東京からね、 妹が

soke:site kitoqtadana
疎開して 来ていたからね。

M oba:sanmo kokoni dareka sjan sokaisitoqta-
おばあさんも 「此所に 誰か しらが 疎開していた」

to iqtadesjo:
と 言っただしょう。

A kokoni gozaqta hiBasino kojanina: gozaqta-
ここに 居られた。 東の 小屋にね、 居られた

wana: œ:saqte ju: sito huta:ri o:katan'o'ie
よね、 愛さんと いう 人 二人が、 大いの 家へ

kite gozaqtawana darezo kanzo kojae
来て いられたよね、 誰か かれが、 小屋へ

K soke:site kitemo nannimo ano zibunwa senso-
群出して きても 何も あの 頃は、 戦争

zibunwa taberu mon arahenna: hæ:kju:baqka-
の頃は、 食べる 物が 無いよね、 配給ほか

side
りで。

M koqci hondemo no:õjo: sitoqtanjaro
こちらは、 それでも、 農業を していたんでしょ。

X hu:n no:õjo: sitoqtade zjapaimodem tabeto-
フーン、 農業を していたので 馬鈴薯でも 食べて

qtanja
いたんだよ。

M a: zjapaimo okomewa
あー、 馬鈴薯、 お米は？

X okomewa aqtakedomo jaqpasina hæ:kju:desj-
お米は あったけれども やはりね、 配給だったし

tajaro hunde iqkura zibunno dokode okome
う。 それで いくら 自分の 所で お米を

toqtemo hæ:kju:jaqtadena sitoriatari sanõo:-
とつても 配給だったからね、 一人当たり 三合

nara sanõo: niõo:nara niõo:atendenan donda-
なら 三合、 二合なら 二合宛でね、 どれだ

keqteqte sondakeka nokosaside morahenanda
けと言ったって それだけしか 残させて もらえなかった。

M a: sore zenbu dasite mauno atowa ato zenbu
あー、 それ 全部 出して しまうの？ 残りは、 残りは 全部

dasite mauno
出して しまうの？

K ikutari oqte nanõjo:teqtana kimaqtotan dena
幾人 居て 何位といつてね、 決まっていたのでね、

soreizjo:wa nokosaqsite morahenandade
それ以上は 残させて もらえなかったの

minna dõ:te maqta hunde jaqpasi sono hæ:-
皆 出して しまった。 それで やはり、 その 配

kju:de tabetekoto omõuto hjakusjo:wa naka-
給で 食べて行こうと 思うと、 百姓は なか

naka he:kju:dewa taberarehenanda
なか 配給では 食べられなかった。

M nani jaqtotano
何を 食べていたの？

K hunde okæ: ozo:suiozja A ozijajaqta (笑)
それで おかゆ、 お雑炊だね、 おじやだった

muõi gjo:sanja watasindokowa ozijajara oke:
麦を たくさんだよ、 私の所は、 おじやや おかゆは

kire:jaqtade muõibaqka gjo:san iretena:
無いだったから、 麦ばかり たくさん 入れておー、

hote tabeta
そして 食べた。

A hunna monzjaqtani
そんな ものだったよ。

K kodomonta:mo oke:ja ozijanta taberuno ija-
子供達も おかゆや おじやなど 食べるのは いや

jade muõihanbakumesidemo e:de muõide gjo:-
だから 「麦半白飯でも よいから 麦 たくさん

san iretekure ju:ta muõi gjo:san iretewa
さん 入れてくれ」と言った。 麦を たくさん 入れてはー

A abura iqto:ka nito: jobun nokosu sonona:
余分を 一斗か 二斗 余分に 残す、 そのね、

curasaqcuqte dondake kuro:site aqcie cjo-
つらさといつて、 どれだけか 苦勞をして、 あちへ 少

boqto koqcie ejoboqto kakuite nito:baka
 し こちらへ 少し 照して、 二斗ばかり

jobun kose:runogana: nnamono
 余分を 作るのがねー、 そんなもの、

M nande kensani kuruno
 どうして? 検査に 来るの?

A kensani kurude nde hosite ome: tate: nan-
 検査に 来るから、 それで、 そして あなた、 大てい 「何

dan cukuqtorude, dondake dase:te ndake
 段 作っているから どれだけ 出せ」といって、 それだけ

dasanto akaheN nde omahan nito:ka sokora
 出さないと いけない。 それで あなた、 二斗か そこら

kakusunoða dondake omahan
 隠すのが どれだけ、 あなた。

M hunde dokoe kakusitano
 それで どこへ 隠したの?

A arujo:na hanasiba ho:zjanina: hunna sanbo:-
 大さっぱな 話として、 そうだねー、 そんな、 三合

aqte cjutakate ohjakusjo:zjaqtara, sanbo:-
 宛 といっても お百粒だったら 三合

atede orenjaro hunde ma:
 宛では 隠られないでしょう。それで まあ、

K-jo: taberudena: hjakusjo:wa
 よく 食べるからねー、 百粒は。

A nanzjana nito:baka omahan jobun nokosunoga
 何だね、 二斗ばかり、 あなた、 余分を 残すのが、

dokoe kakusokato
 どこへ 隠そうかと。

K sorekara mukasiwa ho: ano: asa: tabete ohiru
 それから 昔は その、 あのー、 朝 食べて お昼に

tabete ocjazukeqciu tabemasitajaro sanzini
 食べて お茶漬というのを 食べたでしょう、 三時に。

<A nizini> honde mo: he:kju:ni naqtekara
 二時に それで もう、 配給に なってから

taberunjo:ni naqte maqtande:suna:
 食べられない様に なって しまったんですよ。

A nde mo: sandozikijaro: horamo: mazui monde-
 それで もう、 三度食でしよう、 そればもう、 まずい 物で

mo
 も、

K nde nakanaka hō:kju:dakedewana: tarahenaN-
 それで、 なかなか 配給だけではねー、 足らなかった

dandesu: hunde minna nanjana oke: tabetari
 のです。 それで 昔 何だね、 おかゆを 食べたり

ozija tabetari
 おじやを 食べたり。

M jasaiwa aqtajaro
 野菜は あったでしょう。

K hu:N jasaiwa zibundokode cukrudena:
 ブーン、 野菜は 自分の所で 作るからねー。

A jas:ntena so: hara hukurehen nan iqtoru
 野菜なんてね、 そう 腹が よくない、 何を 言っている、

jas: jas: kore icudemona: gaqkojasumini
 「野菜 野菜」と、 この子は いつでもねー、 学校の休みに

kitemo jas: un jas:baqkade hara hukureke:
 来ても 野菜 クン、 野菜ばかりで 腹が よくるかね?

taqta hontoni jas:kiciðe:ja
 ただ。 本当に 野菜気遣いだ。

K hondemo e:ni jas:wana kusurijade <M ne:>
 それでも いいよ、 野菜はね 菜だから、 ねー

jas: taberu kodenakerana zjo:buni ne:æna-
 野菜を 食べる 子でなければ 丈夫では ないそう

dene
 だからね。

A nanzja sjanba omahan (笑) hontoni jasæ: zja
 何だが 知らないが あなた。 本当に 「野菜野菜」と、
 sitocu ju:to hutacumeni
 何か 言うと 二言めには。

K imano insutan tobakadewa akanto jasæ: tabe-
 今の インスタントばかりでは いけないと、 野菜を 食べ
 na
 なければ。

A haraguwe:wa i:wana
 悪くあいは いいよな。

K imano morwa muɕi tæbezu cjoɕoqto moqte:ne:-
 今の 者は 麦を 食べない、 少し、 もったいない
 deto omoqte mubiwa kusurijadeto omoqte cjo-
 からと 思っ、 麦は 芽だからと 思っ、 cjo-
 boqto iretemo bucubucu surutara nantaraqte
 し 入れても、 「アツアツ する」とか 何とか言っ、
 iga waru naqtataraqtena
 「買が 悪く なった」とか言っ、てね。

M honto watasi muɕi ireteto ju:to iren iwaq-
 本当？ 私が 「麦を 入れて」と 言うと 「入れない」と言わ
 seru kono sito
 れる、 この 人。

K mubiwa ireta ho:ɕana: <A cjoqto irenanna>
 麦は 入れた 方がねー、 少し 入れなければ

gohanmo oisi:si
 御飯も おいしいし。

A hjakueɕa: koqteqtena:
 百円分 買っ、てきてねー。

K hunde watasin dokomo jo: tamani kaqte kuru-
 それで 私の 所も よく、 時たま、 買っ、て くる
 kedo hjakueɕa hukuro cjoqto mo anba:jo: si-
 けれど、 百円分の 歳が 少しも、 ぐあいやく なく

maeta koto arahen minna ijaɕarude jaqpa
 なった 事が ない、 誰、 いやがるので やはり
 iren ho:ɕana
 入れない 方がね。

M imawa muɕi kaqte kuruno
 今は 麦を 買っ、て くるの？

A mo: da:remo
 もう 誰も。

K ima kjo:sjucu site maudeqsjaro tori orusi-
 今は 供出 して、 しまっ、てしよう。 それに糖が 居るし、
 na: hunde cjoɕoqto cucu mukasiwa iqqjo:cu
 ねー、 それで 少しずつ、 昔は 一袋ずつ
 cuitajana cuite maqte tabetakedona: mo:
 ついてだね、 ついて もらっ、て 食べ、たけれどねー、 もう
 soɕnani tabehenmoɕ
 そん方に 食べ、ないもの。

M muɕi cukurahen
 麦は 作らない？

K muɕi cukuqte wa arukedona bi:rumuɕiɕa
 麦 作っ、ては あるけれどね、 ビール麦。

M a: bi:rumuɕi
 あー、 ビール麦。

A mukasiwa niwarikarana: iretan zjawana minna
 昔は 二割からねー、 入れたんだよね、 ろんな。

M imamo ireja i:jan
 今も 入れれば いいじゃないの？

K ho:ja imamo ireruto i:njakedona: sorepa
 そうだ、 今も 入れれば いいだけれどねー、 それが
 akanɕana: bocubocu suruqtara iɕa waru naq-
 だめだがねー。 「ボツボツ する」とか 「買が 悪く なっ
 tataraqte (笑) tabehende ze:takun naqta
 た」とか言っ、て 食べ、ないから ぜい、たくに なった。

A zjakedona: okomedemona: aside cukunowa hon-
だけだね、 お米でもね 足で つくの、 本

to asin darutena: ba:cjanta kita zibun oko-
当に 足が だるくてね、 おばあさん達が 来た 頃は 「お米

me cukeqte iwajitara okomeo aside tonko:
を つけ」と 言われたら、 お米を 足で トンコー

tonko:to nanpe: bo: cukete:te cuitajaro
トンコーと 長い 棒 つけておいて ついたでしょう。

hon:toni ere:mona: kini cukamaqtoqte nakana-
木当に つつらものね、 木に つかまわっていて、 なかな

ka
か……

M mo: zibunde cuita
もう 自分で ついた?

K zibunde aside cuita <M hu:n> asinina nape:
自分で 足で ついた、 フーン 足にね 長い

ki sono sakini cjo:do kinemite:namonna he-
木、 その 先に 階段 きねの礎なものがね、 く

qcuitoru monjade koqcide: humutose:ba tonko:
っついでいる ものだから、 ちもらで 踏むと トンコ

tonko abarunjava
トンコ 上るんだよ。

A sojaqte minna ucide cuitanja sorekara sui-
そうやって 皆、 家で ついたんだ。 それから、 水

sja deqteqtana
車が できてきてね。

M de hucu:wa okomewa mudito cigau jacu are
で、 よつは お米は? 麦と 違う もの、 あれは

cukahen:kane
つかないのかね?

K okome cuitajo
お米は ついたよ。

M okomemo zibunde cuitano iede
お米も 自分で ついたの? 家で、

A taberu okome
食べる お米。

K mubiwa ano zibun dokode cuitemona ume: ko-
変はれた あの 頃 どこで ついてもね、 うまく は

to cukendena: hunde kurumajade cuite maqta-
つげなくてね、 それで 車屋で ついて もらった

nja
んだよ。

M iqsjo:binde okome cuita
一升瓶で お米を ついた?

K sonna zibunwa ano: senna zibundesuwana:
そんな 頃は、 あの 戦争中の頃ですよ、

minna hœ:kju:ino sitobana: ero: ano: ima
皆 配給の 人がね、 大変、 あの、 今

terebide jaqte gozaru ohanasan icumo kamo
テレビで やって いられる おはなさん、 いつも かも

iqsjo:binno nakade cuita gozaru
一升瓶の 中で ついて いられる。

M hu:n sonna koto aqtano
フーン、 そんな 事が あったの?

K hun sojaqtana: minna ho: kuroideqsjaro ku-
フン、 そうやってね、 皆 黒いでしょ、 玄

rome:de moraqtemo sjonne: monjade minna
米で もらっても しょうがない ものだから、 皆

macino sitowa ano iqsjo:binno nakadena ko-
町の 人は、 あの、 一升瓶の 中でね、 こ

jaqte cuqcukinahaqta:penawana: watasira: hon-
うやって つつきなされたそうだよ、 私等は、 そんな

na koto jaqta koto ne:kedona: <A ho:zja>
な 事を やった 事が ないけれどね、 そうだよ

kurotemo jaqpa suisjade cuitarinanka sima-
玄米でも やはり 水車で ついたりなんか しま

sitakedona:
したけれだね。

(4) 天災の思い出

録音日時 1967年3月3日

録音場所 蕨井町岩手津原
浅野ふみえ氏宅

話し手

(略号)	(氏名)	(性別)	(生 年)	(職業)	(居 住 所)
K	児玉きぬえ	女	明治32年生	農妻	大垣市字疇(0~18) 蕨井町岩手津原(18~)
A	浅野ふじえ	。	。26年生	。	蕨井町府中市尾(0~18) 蕨井町岩手津原(18~)
M	浅野ふみえ	。	昭和21年生	学生	蕨井町岩手津原(0~)

解説：(1) 地震のこと(p.66~p.71)
(2) 雷・火事のこと(p.71~p.75)
(3) 日照りのこと(p.75~p.85)
(4) 台風のこと(p.85~p.86)
(附) 米審査のこと(p.86~p.89)

(1) 地震のこと

M zisinnanka do: zisinnanka
地震なんかは どう? 地震なんか。

A zisinde kuro:wa site konandawa
地震で 苦勞は して こなかつたよ。

K zisinde kuro:wa
地震で 苦勞は。

A na: (笑) kodomono zibunniwa:
ねー、 子供の 頃には

K to:kjo:sinsai to:kjo: kanto:sinsaina: koto-
東京震災、 東京、 関東震災の様な 事

wa ne:wana kokorahaewa
は ないよね、 ころはね。

M hu:N
フーン。

A ucini oru zibunwana jabunnakani netani
家に 居る 頃はね、 飯の中で ねたけれど。

K un:ho:ja watasiramo ucini oru zibunna kado-
ウン、 そうだ。 私等も 家に 居る 頃はね、 かと

de
で。

M ucini oru zibun iqte kôqcie ojômeni kuru
家に 居る 頃と というのは ここへ お線に 来る

mae <K e: > hu:N icuoro mada
前? えー、 フーン、 いつ頃? まだ……

A icuqcu: koto na:sini isuqtorudena:
いつという 事 なしに、 揺すっているからね。

K icuqte koto nasina: zisin jusuqtade <A isu-
いつという 事 なしにねー、 地震が 揺すったから。 揺す

qtorudena: >
っているからねー

M na:nde
どうして?

A are nacuzjaqtana:
あれは 夏だったねー。

K nacuzjaqtawana:
夏だったよねー。

長 un atasinta ke:ko ko:toruzjaro ke:ko ko:te-
ウン、私達は 蛋を 削っているでしょう。 蛋を 削って

na:ome: kuwasetoru ma:demo isuqtana: ore-
ねー、あなた、食べさせている 間でも 呟ってねー、居られ

henaNdade jabu maeno jabunakani netanna
なかったから、 蕎麦 前の 蕎麦の中で ねたよね、

josaridemo
夜中でも。

M nani ho:nani isuqtano
何、 そんなに 呟ったの？

K watasira:mo maeno hataken nakadena: kaja
私等も 前の 畑の 中でねー、 かやを

cuqte nacuzjaqtasina: kaja cuqte neta koto
釣って、 夏だったしねー。 かやを つって ねた 事が

aruwa
あるよ。

A un juqsurito:te ke:kodemo konna mondaqtana:
ウン、 呟り通して、 蛋でも こんな位の ものだったねー。

tana abuno:te orehendade hunde watasira
棚が 危くて 居られなかったから、 それで 私等は

jabun nakade neta: josari
蕎麦の 中で ねた、 夜中に。

X hirunankawa hontoni isurit@:tadena: asa
昼なんかは 本当に 呟り通したからねー、 朝、

are asaga hazimarijaqtawana:
あれは 朝の 始まりだったよねー。

M hun hode koqcie kitekarawa mo: are
フン、 それで こちらへ 来てからは もう あれ？

K koqcie kitekarawa: are: ano tokja: to:kjo:-
こちらへ 来てからは あれ。 あの 時は 東京

no sinsem: no aqta tokijaqtakana: isuqtano
の 蛋災の あった 時だったからねー。 呟ったのは。

<M hu:N> hidokaqtanowa oboen ne:wa watasimo
フーン ひどかったのは 覚えが ないよ、 私も。

M honde
それ？

A koqcie kitekara jo: sotode nenNaran jo:nā
こちらへ 来てから よく 外で ねなければならぬ 様な

koto
事は。

K sotode nenNaran kotowa nakaqtawana:
外で ねなければならぬ様な 事は なかったよねー。

M hu:N
フーン。

K watasirawana jo: engawade nete mo: imademo
私等はね、 よく 縁側で ねて、 もう 今でも

sun derareru jo:nina: enBawade neta koto
すぐ 出られる 様にねー、 縁側で ねた 事が

aqtakekona: ucini oru tokiniwa koqci kite-
あったけれどねー、 家に 居る 時には、 こちらへ 来て

kara honna o:zisin isuqta koto ne:na:
から そんな 大地震が 呟った 事は ないねー。

回。雷・火事のこと

M hu:N hunnara kaminariwa <K kaq> [笑] kami-
フーン、 それでは 雷は？ カッ 雷

nariwa kowaijaro watasi kowaikedo kaminari-
は 恐しいりょう？ 私は 恐しいけれど、 雷

toka kazitoka kazitoka aqta
とか 火事とか、 火事など あった？

K kazimo urusiharawa ne:wana: icujara kohaq-
火事も 雷原は ないよねー。 いつか コハチさん

- can dokoŋa cjoqto jaketana:
(人名)の所が 少し 懐けたね。
- A ore:san dokojana:
お礼さんの 所だよね。
- M ore:san toko
お礼さんの 所?
- A hataja moetana: hataŋoja
機屋が もえたね、 機小屋が。
- M hona sono toki do: sita hunnara
それでは その 時 どう した? それなら、
- A do:mo sjoqke:na: do:mo minna kujamini goza-
どうも するものかね、 どうも。 皆 お悔みに 来ら
- rudena: uci akerareseŋŋa:
れるのでね、 家を 空けられないがね。
- M na: na:nde
ナ、 どうして?
- A nde ziqsantadake deteqte uciniwa dazo kan-
それで、 おじいさん等だけ 出て行って、 家には 誰か 彼
- zo orana kujamini gozarude
か 居なければ、 お悔みに いらっしゃるから。
- M hi:kisini ikahenno
火を消しに 行かないの?
- A si:sekiwa kon kitemo koidemo i:kedo josono
親せきは 来ない。 来ても 来なくて、 よいけれど、 よその、
- ano sitoŋa kujamini gozarude uci akete ieni
あの、 人が お悔みに いらっしゃるから、 家を 空けては、 (家に)
- orehenwana: kazin naruto cjan to ucini ora-
居られないよね。 火事に なると ちゃんと 家に 居な
- naran
ければならない。
- M hu:n
フーン。

- A iwademurade iwademurano sito mina gozarude-
岩手村で、 岩手村の 人が 皆 来られるから
- na: iqken iqken arukaqserude
お、 一軒 一軒 歩かれるから。
- M nde kazitoka so: ju: monomo anmari kuro:
それで、 火事とか そう いう ものも 余り 苦勞は
- sitoranne:
していないね。
- M so: ju: kotojane:
そう いう 事はよね。
- K so: ju: kotoniwana: ano: are jaketa tokini
そう いう 事にはね、 あの、 あれ、 懐けた 時に
- minna are ponpu hi:te iqta minna otokono
皆が あれ、 ボンプを ひいて 行った。 皆 男の
- sitowa usabiŋaridena: minna jame: iqte maq-
人は 見知りだね、 皆 山へ 行って しまっ
- toqtadeqsjaro <A sjo:ko:zijame: iqte maqto-
ていたでしょう。 ショーコー寺山へ 行って しまっ
- qtan > hu:de onasobaqka jaqtakedona:
いたの > それで 女ばかり だったけれどね。
- M hundu do: sitano
それで どう したの?
- K minna ponpu hi:te hasiqta <A hasiqtena: ko-
皆 ボンプを ひいて 走った。 走った、 皆 走って、 こ
- no suŋu higasija > hositara minna jamakara
の すく 東の方だよ > そうすると、 皆 山から
- orite gozaqtadena: minna asokomade ar:made
降りて ござられたのでね、 皆 あそこまで、 新井(地名)まで
- moqtegtekara otokono sitonta:
持って行ってから、 男の 人達が、
- A watasinta kibaqte ka: jaqte osite jaqtoru-
私達は がんばって こう やって 押して やっている

noni otokono siton urusiwara kitoranto ke-
のに、 男の 人達は 膝原へ 来ていないで

ro:nto maeno ho:dena mitoqtajaro hunde ba:-
ローンと 前の 方だね、 見ていたでしょう。 それで 婆

cjan okoqtana:, nani jaqtoru kono urusiwarade
さんが 怒ってねー、 「何を やっている、 この 膝原で」……

ke:sacudese: kono onnabaqkana: ano sjo:bo:-
警察でさへ 「この 女ばかりでねー、 あの、 消防夫

hu jaqtorujo:na mon dokozja cju:te kikasi-
を やっている様なのは 何処だ、 と言っ 聞かれ

tajaro hunde ba:cjan urusihara kono nisino
たでしょう。 それで 婆さんが 「膝原、 この 西の

urusihara cju: tokodesu cjuqte oba:cjan
膝原 という 所です」 と言っ、 お婆さんが

ju:tan:zja hositara jo: kibaqte kureta cju:-
言っただよ。 そうすると 「よく がんばって くれた」 と言っ

te hosite ome:
て、 そして あなた。

M hu:N
ブーン。

A re: iwasitawa onagobaqkade jaqta
お礼を 言われたよ。 女ばかりで やった。

M hu:N onagobaqkadena:
ブーン、 女ばかりでねー。

A otoko kero:nto site mitoruno
男は クローンと して 見ているの。

M honnara otokono sito nani mitoqta
それでは 男の 人は 何を 見ていたの？

K ho:ja minna jame: iqte gozaqta monde usaBi-
そうだ、 皆 山へ 行って いられた ので、 兎

baridena (M hu:N)
狩りだね、 ブーン

K hunde jamakara oriteqte
それで 山から 降りてきて。

A imawa mo: usabi:bariqte arahendena hajowa
今は もう 兎狩りって 無いからね。 以前は

mo: nanke:ka hujuucini aqtadena
もう 何回か 冬の間に あったからね。

M usabi:barini iqtano usaBi sonnani oqta
兎狩りに 行ったの？ 兎は そんなに 居た？

K oqtaka siran minna otokono sitonta ikasita
居たのかしら、 皆 男の 人達は 行きなされた、

jame: otokono sito oran mona: onabonta:
山へ、 男の 人は 居ない のでねー、 女の人達は……

4 日照りのこと

M hu:N nara tanbo hideriqte arujaro tanbo
ブーン、 そんなら、 田んぼの 日照りって あるでしょう？ 田んぼ、

K hora hideriwa aqtawana: are nannen sjo:wa
それは、 日照りは あったよねー、 あれは 何年、 昭和

nannenborojaqtajaro hideri monosube: atasi-
何年頃だったか、 日照り、 ものすごい、 私達

ra: hici:acu zju:gonicimade ta: e:ta koto
は 七月 十五日まで 田を 燃えた 事が

aqta (A u:N u:N) are nannenborojaqtakasiran
あった。 (ウーン ウーン) あれは 何年頃だったかしら。

A nannenjaqtaqtasiranna: jonabeni tokimizu-
何年だったかしらねー、 夜なべに 時水

de nanzjana tanbo sitanzjana:
で、 何だね、 田んぼの仕事を、 したんだよねー。

K tokimizude minna kone:tena: hosite ta: ue-
時水で、 皆 (土を)こなしてねー、 そして 田を 燃え

tanja watasira: iqpo ñino ano: tanbo koko-
たんだよ。 私等は 一本木の、 あの。 田んぼ、 一

nose ikuraqte: jacuni sa: ñbenka sihenka ga-
鼻 余りという 田に、 三度か 四度か、 たく

han kakaqte
さん かかって。

A u: ñ mo: iqso mame uejoka siranto omoqtena:
ウーン、 もう いつそ 豆を 植えようか、 しらと 思ってお、

kanko: sitoqtanjakedo tokimizude sitosimacu
くふう していったけれど、 時水で 一しずつ

sitosimacu atasi kono jasikida uerusina:
一しずつ、 私は この 屋敷田を 植えるしね、

kone: teqtanzja
こなしていったんだよ。

K sanna hiciñacuno zju: goñcimade ta: ueta
そら、 七月の 十五日まで 田を 植えた。

nansjo: watasi hiñdeono ci: se: tokijade nan-
何しろ 私、 英男の、 小さい、 時だから 何

neñ gre: qta sjan sjo: wa zju: joneñni umarete:
年 位だった かしら。 昭和 十四年に 生まれて、

sicineñka zju: sicineñka sokorajaqtarokana:
七年か 十七年か、 それ位だったろうかね、

zju: sicineñka zju: hscineñjaqtakasiñan
十七年か 十八年だったかしら。

A ima: wa so: o: hideriqte ne: dena: <K u: ñ>
今は そんなに 大日照りして ないからね、 ウーン

o: hiderizjato doqkani te: macu abaqtakedona
大日照りの時は どこかに たいまつが 上ったけれどね、

imawa sonna o: hideriwa ne: wana: iwasakisana-
今は そんな 大日照りは ないよねー 岩崎さん(神社)

de: ome: san o: hideri sita tokini zuzukuñuri
で、 お前さん、 大日照り した 時に 数珠くぐり、

<K zuzukuri> zuzukuritaraqte <M zuzukuri>
数珠くぐり 数珠くぐりとかって <M zuzukuri>
ズズクリ?

u: ñ so: najaqtawana
ウーン、 そんなだったよね、

K ano odoqtan
あの、 降ったの。

M odoqtana
降ったのか?

K hunde o: ki: zuzuona: minna wa: naqtana ku-
それで、 大きい 数珠をね、 昔、 船に なるてね、 くっ

tano hoqte <A te: sanzide> te: sanzideka do-
たの。 そして、 テーサン寺で、 デーサン寺でか、 ど

kodejaqta sjan
こでだった かしら。

A hjakumandara kuqtano
百マンダラ ぐったの。

M honnara ame hugta (笑)
そしたら 雨 降った?

A zuzuna: konna kure: no tamanna minna wanani
数珠をね、 こんな 位の 珠のね、 昔、 わなに

sitene hjakumandara iqte kuurunzja ko: jaq-
たのね、 百マンダラ 言って、 くぐるんだよ、 こう や、

te hoqte kona kure: no tama kuqte: na dō: te: -
て、 そして この 位の 珠を、 くってね、 大住、

wa ko jaqte na: mandabu na: mandaqte huqte
は こう やって、 「雨無阿弥陀仏」「雨無阿弥陀仏」って、 降って、

cjanona huqtarina:
ちゃんとね、 降ったりね、

M hugta huqtano
降った? 降ったの?

A cjoboqtoka hurahen iwasakisandena mata an
少ししか 降らない。 岩崎さんでね、(神社) 又、 あの

naNz]ana minNanna waraziŋakede sonna zibun
何だね、 皆ね、 草鞋がけ、 そんな 時分

daremo zikatabiNja nanja waranzi he:te o:-
誰も 地下足袋や 何か、 草鞋を はいて、 大

kina konna kure: no ze: hare: qtena: simomaci
きい こんな 位の 位、 下町の

te: kosan nando ko: Nna kure: no waraziŋte
紗子さん などは こんな 位の 草鞋はいて、

o: dō kodena so: jaqte minna oma: N sinŋan
大太鼓だね、 そう やって 皆 あなた、 心願を

kaketaNjana: sonna kure: daqtanna
かけたんだよね、 そんな 位だっただね、

K na u: rimo nasubimo korokoroja ju: tena:
ね、「瓜も 茄子も ココロだ」と 言っかね。

〈M korokro〉 huN hideridena 〈M hu: N〉 u: rimo
ココロゴ フン、 日照りでね フーン 瓜も、

〈M a: so: ka〉
あー そうか

A un a: me: ciqto okurenka cjuqte 〈M hu: N〉
ウン、「雨を 少し 下さい」と言っかね、 フーン

so: ja u: rimo na: subimo ko: rokorocjuqtena
そうだ、「瓜も 茄子も コーコロ」と言っかね。

hoqtewa tō: ko o: kina o: dō: kona tanŋo sitōa
そして 太鼓 大きい 大太鼓ね 谷の 人が

kumaqta dede: N dede: Ntona osano o: de: ko
くまれた。 デデーン デデーンとね、 表(仮地名)の 大太鼓

cju: kedo moqto iqke o: de: ko sitena hoqte
というけれど、 もっと 大きい 大太鼓 でね、 そして

jarasita konna kure: no de: wa de: te sa: tena
やりなされた。 こんな 位の 位、 そうしてね、

sore minna uta arude uta jaqtana
それは 世 歌が あるから 歌を 歌ってね、

M hu: nde okome minna karete maŋjaro
それで、 お米は 昔 枯れて しまつてしょう？

K karete maqtakedona: hiciŋacu icudemo roku-
枯れて しまったけれどね、 七月、 いつでも 六

ŋacu no sueŋina: uete maunŋi sono tosiwa
月の 末にね、 報えて しまうのに、 その 年は

hiciŋacu zju: goncimade ueŋakedona
七月 十五日まで 報えられだね、

M nanio 〈A huN〉
何を？ フン

K okome ta: ue 〈A ta: ue:〉
お米、 田稲、

M ta: ueo sitano a mizuŋa nakaqtade hu: N
田稲えを したの？ あ、 水が なかったの？ フーン、

K mizuŋa nakaqtadena cjoboqtōzucu tokimizude
水が なかったの？ 少しずつ 時水で

kone: tewa hoqte ueteqtanja 〈M un〉 nde nde-
こなしては、 そして 報えていったんだよ。 ウン、 それで、 それで

mo warie: to sono tosiwana aqtano
も、 新合に その 年はね、 あったの。

M a okomewa aqtano
あ、 お米は あったの？

K aqta 〈M hu: N〉 hideqte oso: uetakedona:
あつた フーン、 日照りで おそく 報えられだね、

hōnde wase ueta sitowa akanaŋdakedona oku-
それで 早稲を 報えた 人は だめだったけれどね、 晩稲

wa jōkaqta 〈M hu: N〉 wase ueta sitōa do:
は よかった。 フーン、 早稲を 報えた 人は どう？

jōke torenanda 〈M huN〉
たくさんは とれなかった。 フン

A cjobo: Ntoka torehen kaqtemo moe: tōmo i: ku-
少ししか とれない、 刈っても 燃やしても よい 位

re: no monzjaqtá
の ものだった。

M hu: n nan de ho: n na ra ó kut en o si to wa
フン、 どうして? それでは 晩稲の 人は?

K ho: fa so: no si to no an be: de na jaq pa si ó ku te
それは その 人の ついでだね、 やはり 晩稲を

ie ru jo: to ó mo q te i e ta si to mo ar usi wa se no
植えよと 思って 植えた 人も あるし、 早稲の

ho: ga e: to ó mo q te i e ta si to mo ar un ja wa na
方が よいと 思って 植えた 人も あるんだよね。

M hu: N a: ue ru to ki wa on na si ni ue ta ke do
フーン、 アー、 植える 時は 間じ稲に うえたけれど?

K hu: N so: so: ue ru to ki wa ho ra min na me: me:
フーン、 そうそう、 うえる 時は、 それは、 昔 それぞれ

ja wa na hi de ri no to ki ja de hu: N hu nde mi n na
だよ、 日照りの 時だから。 フーン、 それで 昔

c jo bo q to cu cu to ki mi zu de na < M hu: N > ko ne: -
少しずつ 時水だね、 フーン、 こなし

te wa ie te q ta n ja na hu nde ó ki i ta n bo ja to
ては うえていったんだよね、 それで 大きい 田んぼだと、

sa n be n mo si he n mo ni ie ta n ja de < M hu: N >
三回も 四回もかかって うえたんだよ、 フーン、

M i ma wa ha cu do: ki de di: a: q to mi zu a de te na ra: ku
今は 発動機で ダーと 水を 上げてね、 薬を

su ru wa na: mu ka si wa cu ru be de do q ka: N a do q
するよね。 昔は 釣瓶で 「ドッカーン、 ア、 ドッ

bo: do q ka: N ko te ko: ja q te na: ko nda ke ba ka no
ボー、 ドッカーンコ」 って、 こう やってね、 之だけ位の

o ke de na ha go s jo: ka go s jo: ba ka zu cu he: ru
桶だね、 八、 五升か、 五升ばかりずつ 入る

o ke de na a no
桶だね、 あの……

K gi: do bo n gi: do bo n
ギードボン ギードボン

A gi: do q bo: N ko usi ro de ho to na wa hi ki z ja a
ギードボンコ、 後で、 そうすると、 耕引きだよ。 「ア

jo: i jo i q te na (笑) a gu ru i ki ni usi ro de na w
ヨイヨイ」といってね、 後で 綱を

hi q pa ru n ja na ho to ta: q to ta n bo e ku ru de
引っぱるんだね。 そうすると、 ターッと 田んぼへ 来るから、

ma ta gi: q te jo: i c jo q to usi ro de cu na hi ki q te
又 ギーといって、「ヨイッソ」って 後で 綱引きして

hu: N to ni na: o ko me si to cu bo hu n na mo n z ja q ta
水当におー、 お米 一粒、 そんな ものだった。

i ma wa ha cu do: ki de i ne hi ki se s ja so nde i: de
今は 発動機で 稲引きさせ すれば それで よいから、

to q to to q to to si to ri a ga q to ru z ja ro u ci a ta -
トット トットと ひとりでに 上っているでしょう。 家等

ri de mo u: n na mo ha n ba: c ja n ta de mo ka: ra da de
でも そんな もの、 ハン、 婆さん達でも 河原田で、

ho te ma da so no a: da ni to ki mi zu hi ki ni ha si -
そして、 まだ その 間に 時水引きに 走る

ra n na ra n si na: he q te i do de da: re mo cu ru be
なればならないしねー。 そして、 井戸で 誰も 釣瓶の

u si ro mo hi q pa q te ku re he n o me: ra ga q ko: e
後も ひっぱって くない、 お前らは 学校へ

i q to q ta de so si te o me: ba: c ja n si to ri na: n bi
行ったので。 そして お前、 婆さん(自分) 一人が 稲巻を

si te ko: ja q te do q po: N
して、 こうやって ドッボン……

M wa ta si u ma re to ra he n ne ma nda
私は 生まれていないね、 まだ。

K u ma re to ra he n ja ro: ma nda cu ru be de ku nda jo na
生まれていないだろう、 まだ、 釣瓶で 汲んだ 様な

koto arahenjaro
事は ないだろう。

A na:ni kono kowa ma:
いへ、この 子は まへ。

M umaretorahe njo watasi
生まれていないよ、私ほ。

A u:n ba:cjanta
ワーン、婆さん(自分)達は……

K a: ka:rade: kakeni iqta zibun umaretorahe-
ア、河原田へ かけに 行った 時は 生まれていな

nanda ka:radade kaetawana ka:radan tokini
かった。河原田で かえたよね。河原田の 時に、

asokono sanme:de kaetawana
あそこの 墓場で かえたよね。

A sanme: josarina nizika sanzinina: tokimizu
墓場、夜中にね、二時か、三時にね、時水

aqta atona: hoqto soede ano hasino sitadena:
そうすると、それで あの 橋の 下でね、

bakecude cjoqpo:n de donna gre: kakaqtasi-
バケツで チョッポーン… それで、どの 位 かつたかしらと

janto simono ho:no tanbo tatami nizjo:baka-
(思うと) 下の 方の 田んぼに、畳 二畳ばかり

zucu mizu kakaqtota hunna monzjaqtana hu-
づつ 水が、かかっていた。そんな ものだったね。そんな

na kure: hideqtamona: <M hu:n> tokimizuni
な 位 日照りがしたのね。 <フーン> 時水に、

sono zikandake zibunno
その 時間だけ、じぶんの……

K ano sanme:no ano kure: tokoe kakeni ikuno
あの 墓場の、あの 暗い 所へ かけに 行くのは

ijazjaqtawa watasiwa <A huntoni> na: san-
いやだったよ、私ほ。 <本当に> ね、墓場

me: nona: maqkurokeno tokode kaetanjaqana:
のね、まっくらな 所で かけたんだよね。

tokimizu kurutose: bana: nizika sanzi
時水が 来るとね、二時か 三時頃(午前)に。

huqtose: ba cuqo: waruito kurujaro huqto
そうすると、つごうか 悪いと、来るでしょう。そうすると、

sokoe kake ano kaeni ikunjaqana: tokimizuto
そこへ かけ、あの かけに 行くんだがね、時水と

iqsjonina: hosæ: monjade mizuda mizudakede-
一箱にね、細い ものだから、水が、水だけで

wana: medono mizudake hosæ: monjade hunde
はね、溝の 水だけ 細い ものだから、それで、

ano kaeba kaketaqtadena: minna:
あの、カエバを かけてやったのね、皆。

M kaeba ju:te:
カエバと いうのは?

K mizu kaeru jacu
水を かえる もの。

A ba:cjan ima ju:ta
お婆さんが 今 言った。……

K sokoe honde kaeni iqtanjana zikanna kuruma-
そこへ、それで、かえに 行ったんだよね、時間が くるま

de
で。

A hunde hasino sitade dojon dorude soicuna
それで、橋の 下で よんでいるから、それをね、

bakecude kumiagete
バケツで 汲み上げて。

K maqkurokejanoni sanmuinina: <M sitoride
まっくらだのに、寒いのにね、一人で

ikuno> a: an otokono sitoto hutari iqtan-
行くの? アー、あの、男の 人と 二人で 行った

ja <M hu:N>
の、 フーン

A otokowa simono ho:de oman doqponko jaruzja:
男は 下の 方で、 お前さん、「ドッポンコ」と やるの。

onabowa hasino sitano do:jon da mizude oman
女は 橋の 下の よんだ 水で お前さん

ko: jaqte hoqte simono ho:no iqponimade
こう やって、 そして、 下の 方の 一本木まで、

tanbona donnakure:na: mizu mawaqtasijanto
田んぼのね、 どの位ね、 水が まわったかしらと

moqte miniku tatamina: nizjo:bakazucu mina-
思っ て 見に行くと、 登ねー 二倍ばかりずつ

kute pa:to mizu uqtonno honamozjawa <M hu:-
水が そんなものだよ。 フー

N> hontozjana na:ndi site kita <K ho:Nzja>
本当だね、 難儀を して きた、 そうだ

A tadosanmacurino tokizja ano henzjana:
多度さん(神社名)祭の 時だよ。 あの 頃だよ。

K un ano henzjana
ウン、 あの 頃さ。

A joqka <M hu:N> joqka sono maekarana: tado-
四日、 フーン 四日、 その 前からねー、 多度

sanmacurikaqteqte toromacuri mini iqtoruno-
さん祭といつても、 (他人は)難儀を 見に行っているの

ni doqbo:nko dobo:nkoto nizikanbakazucu
に、 ドッポンコ ドッポンコと、 二時間ばかりずつ

jaqte kurunzana: tatamini
やって くるんだよねー。 蚕に……

K huntoni ano jo:sari maqkurokeni ikunowa
本当に、 あの、 夜中 真暗な時に 行くのは

ijazjaqtawa watasimo jonakani nizika icizi-
いやだったよ。 私も 夜中か 二時か 一時

ka nizigoro ikuno iciban ijajaqta
か、 二時頃、 行くのが一番いやだった。

A huntoni simokawano jo:ni mizuga takusan-na-
本当に、 下川(田の名)の横に、 水が たくさん

rana: rakuikedo kore jamaga cju: monowa mi-
らねー、 寒だけれど、 これ、 山家、 どうい ものは 水

zuga tasine:de <M hu:N> na:ndi site kitan-
が 乏しいから、 フーン 難儀を して きたん

da: mukasino koto ju:to jo: ikitoru cju:na
だよ。 昔の 事を 言うと、 よく 生きている という様な

monjana:
ものだねー。

台風の こと

M honara taihu:mo kurujaro:
それでは、 台風も 来るでしょう。

K hu: tæ:hu:mø kuruwana: hora
フン、 台風も くるよねー それほ。

M hidokaqta kokorahenwa
ひどかった？ こちらへんは、

K hu: kokorahenwana: tæ:hu: kitemo warie:tona
フン、 こちら辺はねー、 台風が きても、 割合とね。

hu: icudemo iqkura tæ:hu: kitemo kome toren
フン、 いつでも、 いくら 台風が きても、 米が とれない

cjutakate watasi kitekarawa roqpio:ipri
と言つても、 私が 家にきてからは、 六俵より

ikawa:toreta koto nakaqtakedona: <M hu:N>
以下は とれた 事が なかつたけれどねー。 フーン

kjoneka ototosikana monosube: nakaqtanowa
去年か 一昨年か、 ものすごく 無かつた(少かつた)のは。

ototosja
一昨年だ。

A sono ucino sitoni joqtana: tarosanmacurizi-
その 家の 人に よってね。 多度さん祭の時

buñniwa kubacuno joqka miqka zibunni icude-
分には。 九月の 四日か 三日の 時分に。 いつで

mona: kuruşjağa ma: aotade da: to aodatami
もね。 台風がくるんだが。 マー 青田で 一面に 青葉を

hi:tan soñdemo kome ne: cju: kota: arahen-
煮いた様に。 それでも。 米が ない という 事は ない

na: na:ñiwa suqkedona:
ね。 煎餅は するけれどね。

K na:ñiwa suruna jaqpa doqcika teja: ciqtoba-
煎餅は するよね やはり。 どちらかと 言えば。 少し

ka hideqta ho:ga kome okomewa joke toreru-
位 日照りの した方が 米。 お米は たくさん とれる

wana <M hu:N> asmari huruto jaqpasina ku-
よね <M hu:N> 余り 降ると やはりね。 降

saqtari nanka suru
ったり なんか する。

(附) 米審査のこと

A hunde ba:cjan jo: maeni okome sitocubodemo
それで。 婆ちゃん(自分の事)はよく 以前に 「お米 一粒でも

dm:zini site tabete kure:jo cju:te (笑)
大朝に して 食べて。 くれよ」と言って。

hontoni toru min naqtona: nakanaka okome
本面に とる 身に なるよね。 なかなか お米

sitocubodemo: <M hu:N> un nakanakajade
一粒でもね。 <M hu:N> ウン、 なかなかだから。

huna ke:sanme:zjatote mina ar@: nakanaka
そんな。 だといって。 皆、 あれは なかなか

ke: so:koe moqteqtana: nito:zja nanzjaqte
ケ、 倉庫へ 持って行ってね。 二等だとか 何だといって。

nakanaka uqte moraeñ ucide joqpodo senbecu
なかなか うって もらえない。 家で 余程 より分けを

sitekanana: nito: moraeñzjaro <M hu:N>
して行かなければね。 二等が もらえないだろう。

nanzja dadakusani site jonto:na: ahokuse:-
何だよ。 がさつに して。 四等ね。 ばかばかしい

gana irija kakete keqte kiraren mo: harie:
がね。 焼って 米られない。 もう、 はりあいが

no:te
なくて。

M harie: no:te
はりあいが なくて?

A un nito:zjato ha jokaqta cjuqtana: moro,
ウン、 二等の組合は 「へ、 よかった」と言っね。 モロ、

kakicuke morote keqte kurukedo jo:nto:zjate
書きつけを もらって 焼って くるけれど、 四等の場合は、

onnasi jo:ni objakusjo: site hosite ome:
同じ 様に お百姓仕事を して、 そして あなた

jo:nto:ka torenande ahokusote sja:arahen
四等しか とれなくて、 ばからしくて しょうがない。

ho:ja jonto:no ho:ga i:nzjakedo buwariwa
そうだ、 四等の 方が よいのだけれど、 歩いて、 あなた、

ho:ja buwariwana: senbecu so: se:demo kuzu-
そうだ。 歩割りはおね。 より分けを そんなに しなくても、 煎米

me: horikonde kurude e:kedona: i:kedomo
を はりこんで 歩くので よいけれどね。 よいけれど、

sore jaqpa to:kju: i:tose:ga kao e:zjaro
それは やはり、 等級が よいと 顔が よいでしょう

M kaoga i: no [笑]
顔がよいの？

A huntuozjano onnasi jo:ni nãni site hunde
ほんとお、同じ様に 動機を して、 それでも、

jaqpa senbecu surude huude nito: toqte ku-
やはり、より分けを するから、それで、二等を とって

ruto iqke: kao site keqte kuru unde enmasa-
ると、大きな 顔を して 帰って くる。それで えんまさ

Nzjazo komesinsawana: <M hu:N> ho:ntoni
んだよ、 米審査はねー ブーン 本当に、

omentademo gaqko:de siken jaru jo:na monde-
お前達でも、 学校で 試験を する 様な もので

na: enmasanzja ohjakusjo:no <M un> un ano
おー、 えんまさんだよ、 お百圓の。 ウン ウン、 あの

komesinsandakega iciban ohjakusjo:de ijaz-
米審査だけが 一番 お百圓にとって いやで

jane:kana me:kata no:temo akãnsi o:suðiru-
はないかな。 目方が 足りなくても だめだし、 多すぎる

nomo iran koqcja <K iran koqjasi> un-hoq-
のも 余分の 事だ。 余分の 事だし ウン、 申し

te'omc: o:ze: kakaqte komenna minna tenohi-
て、あなた、大勢 かかかって 米をね 昔 てのひ

rã: nosete ko jaqte kicinãto saqseru tã:te:
らへ のせて、 こう やって きちんと しなせる。 よいかげん

cure: koqcja [笑] <M hu:N> ho:neju:te
つらい 事だよ。 ブーン 本当を言って、

ka:cjan huude icudemo ijaðarugaja to:cjan
母さんは、 それで いつでも いやがるじゃないかね、 父さんは

ikinaharahende
行きなさいないので。

K a: ho:ntoja ho:ntoni kome:te:nowa ijajadena
アー 本当だ。 本当に いやだからね。

A ijazjawana: onagobaqkazjakedo ho:ntoni ijana
いやだよなー、 女の人ばかりだけれど、 本当に いやな

monzja
ものだよ。

K mo: ukaqte mauto jarejareto omou
もう、 うかかって しまうと、 やれやれと 思う。

A u:N un hu:ntoni hotokesan oðamanaran [笑]
ウン ウン、 本当に 仏さんを 拝まなければならぬ、

a jarejare sunmasita cjute <K ho:zja> un
[アー、 やれやれ 祈りました] と言って、 <K そうだ> ウン、

sonna monzjani: sono mici hæ:rutona:
そんな ものだよなー、 その 道へ 入るとなー。

K sono mici hæ:rutona: na:ndemo onnasi koto
その 道へ 入るとなー、 何でも 同じ 事、

gaqko:demo sikennga ukaruto jarejare
学校でも 試験が うかると やれやれ。

A u:N un jarejareto mo:
ウン ウン、 やれやれと 思う。

非 売 品

1968年3月

国立国語研究所 話しことば研究室 発行

東京都北区穂付西山町

